

BUSICOM



BC-NL1100U II

ロングレンジバーコードリーダー
ユーザーガイド

免責事項

製品をご使用前に取扱説明書をよくお読みいただき、取扱説明書に従って操作してください。
今後のご使用のために取扱説明書を大切に保管してください。

スキャナーを解体したり、スキャナーからシリアルラベルやロゴをはがしたりしないでください。
その場合、ビジコム製の保証の対象外となります。

この取扱説明書の写真は実際の製品と内容が異なる場合がございます。本製品の修正とアップデートについて、当社は、信頼性、性能、設計の改善のためソフトウェアまたはハードウェアをいつでも予告なくアップデートすることができます。ここで告知するアップデート情報は、事前告知を行わない変更が対象です。

この取扱説明書で説明する製品が当社またはサードパーティが著作権を有するソフトウェアが含まれている場合があります。お客様は個人または法人を問わず、著作権者から書面による同意を得ていない場合、当該ソフトウェアの全体または一部を流通、改造、逆コンパイル、逆アセンブル、解読、リバースエンジニアリング、貸与、譲渡またはサブライセンスが禁止されています。

この取扱説明書は著作権を有しております。当社から書面による許可を得ていない場合、方法を問わず内容の複製、流通または利用を禁止します。

当社は上記免責事項について最終的な解釈権を有しています。

株式会社ビジコム

<https://www.busicom.co.jp>

Copyright ©2023 BUSICOM Co., Ltd. All Rights Reserved.

改訂履歴

バージョン	説明	日付
1.0.0	初版	2018 年 01 月 09 日
1.1.0	再編集	2018 年 12 月 05 日
1.2.0	第 6 章 GS1 バーコードの括弧”()”の付加可能。<FW. V1.13.005 以降>	2019 年 02 月 05 日
1.2.1	免責事項の改定	2023 年 06 月 09 日

目次

はじめに.....	1
はじめに.....	1
ユーザーガイドについて	1
イントロダクション	1
章の説明	2
マニュアルについて	2
第一章 スタートガイド.....	3
イントロダクション	3
開梱について.....	3
BC-NL1100U スキャナ	4
データポートのピン配置	4
スキャナをホストに接続する	5
USB ケーブル	6
RS-232.....	7
通信ケーブルの取り外し	8
電源オン/オフ、スリープ、リブート	9
メンテナンス	10
寸法図 (単位: mm).....	11
スキャン手順.....	12
第二章 全般設定.....	13
イントロダクション	13
バーコードプログラミング	13
コマンドプログラミング	13
イーजीセットプログラミング	13

プログラミングバーコード/プログラミングコマンド/機能	14
プログラミングコマンドの使用	15
コマンド構文	15
クエリコマンド	16
レスポンス	16
BEL キャラクターのビープ音	18
プログラミングバーコードの使用	19
工場出荷時設定	19
カスタム 初期設定	20
オペレーティングモード オプション	21
スキャンモード	22
マニュアルモード	22
読取りタイムアウト	22
自動スリープ	23
バッチモード	24
読取りタイムアウト	24
オートモード	25
読取りタイムアウト	25
読取り間隔タイムアウト (同じバーコード)	26
ブリンクモード	27
読取り間隔タイムアウト	27
センスモード	28
読取りタイムアウト	28
読取り間隔タイムアウト	29
感度設定	30
読取り間隔タイムアウト(同じバーコード)	31
連続モード	32
読取り間隔タイムアウト読取り間隔タイムアウト	32
読取り間隔タイムアウト(同じバーコード)	33

コマンドトリガーモード	34
読取りタイムアウト	35
不正な読み取りメッセージ	36
セキュリティ設定	37
電源投入時のビープ設定	37
読取り時ビープ音設定	38
読取り時ビープ音タイプ	38
読取り時音量	39
読取り時ビープ音長さ	39
読取り時 LED 設定	40
読取り時 LED 点灯間隔	40
読込み時インジケータタイミング	41
ACK / NAK オプション	42
ACK / NAK エラー処理	43
ACK / NAK キャラクター設定	44
ACK / NAK 送信エラービープ音	44
ACK / NAK リトライ回数設定	45
ACK / NAK タイムアウト設定	45
有効/無効 キャラクター設定	46
第三章 クエリコマンド	47
第四章 通信設定	48
RS-232 インターフェイス	48
ボーレート	49
パリティ チェック	50
ストップビット	50

データビット	50
フロー制御.....	50
USB インターフェイス.....	51
USB サスペンド	51
USB HID-KBW.....	52
キーボード・レイアウト.....	53
インターキーストローク間の遅延.....	54
コンバートケース.....	55
エミュレート Alt +キーパッド.....	56
ファンクションキーマッピング	58
テンキーキーパッド エミュレート設定	58
ポーリングレート	59
コードページ	60
USB COM ポートエミュレーション設定.....	61
USB HID-POS	62
イントロダクション	62
スキャンしたデータを取得する.....	62
IBM SurePOS	63
VID/PID	63
第五章 プリフィックス・サフィックス.....	64
イントロダクション.....	64
プリフィックス シーケンス	64
カスタム プリフィックス.....	64
有効 / 無効 カスタム プリフィックス.....	64
カスタム プリフィックス設定.....	65
AIM ID プリフィックス.....	66
Code ID プリフィックス.....	66
すべての Code ID を初期化する.....	66
Code ID 変更	67

カスタム サフィックス	70
有効 / 無効 カスタム サフィックス	70
カスタム サフィックス設定	70
終端文字 サフィックス	71
有効 / 無効 終端文字 サフィックス	71
終端文字 サフィックス設定	71
第六章 各種バーコード	72
イントロダクション	72
全般設定	72
有効 / 無効すべての各種バーコード	72
ビデオリバーズ	72
Code 128	73
Code 128 を工場出荷時設定に戻す	73
有効 / 無効 Code 128	73
Code 128 の桁数設定	74
UCC/EAN-128	75
UCC/EAN-128 を工場出荷時設定に戻す	75
有効 / 無効 UCC/EAN-128	75
UCC/EAN-12 の桁数設定	76
AIM 128	77
AIM 128 を工場出荷時設定に戻す	77
有効 / 無効 AIM 128	77
AIM 128 の桁数設定	78
JAN-8 (EAN-8)	79
JAN-8 (EAN-8) を工場出荷時設定に戻す	79
有効 / 無効 JAN-8 (EAN-8)	79
チェックデジットの送信	79
アドオンコード	80
アドオンコード必須設定	81

JAN-8 (EAN-8) から JAN-13 (EAN-13) への変換.....	81
JAN-13 (EAN-13)	82
JAN-13 (EAN-13) を工場出荷時設定に戻す	82
有効 / 無効 JAN-13 (EAN-13)	82
チェックデジットの送信.....	82
アドオンコード	83
アドオンコード必須設定.....	83
JAN-13 (EAN-13) 290 で始まるアドオンコード必須設定	84
JAN-13 (EAN-13) 378/379 で始まるアドオンコード必須設定	84
JAN-13 (EAN-13) 414/419 で始まるアドオンコード必須設定	85
JAN-13 (EAN-13) 434/439 で始まるアドオンコード必須設定	85
JAN-13 (EAN-13) 977 で始まるアドオンコード必須設定	86
JAN-13 (EAN-13) 978 で始まるアドオンコード必須設定	86
JAN-13 (EAN-13) 979 で始まるアドオンコード必須設定	87
ISSN	88
ISSN を工場出荷時設定に戻す	88
有効 / 無効 ISSN	88
ISBN	89
ISBN を工場出荷時設定に戻す	89
有効 / 無効 ISBN	89
ISBN フォーマット設定	89
UPC-E	90
UPC-E を工場出荷時設定に戻す	90
有効 / 無効 UPC-E0.....	90
有効 / 無効 UPC-E1.....	90
チェックデジットの送信.....	91

アドオンコード	91
アドオンコード必須設定	92
プリアンブルキャラクターの送信	92
UPC-E を UPC-A へ変換する	93
UPC-A	94
UPC-A を工場出荷時設定に戻す	94
有効 / 無効 UPC-A	94
チェックデジットの送信	94
アドオンコード	95
アドオンコード必須設定	95
プリアンブルキャラクターの送信	96
Interleaved 2 of 5	97
Interleaved 2 of 5 を工場出荷時設定に戻す	97
有効 / 無効 Interleaved 2 of 5	97
チェックデジット確認設定	98
Interleaved 2 of 5 の桁数設定	98
Febraban	100
有効 / 無効 Febraban	100
送信遅延の設定	100
ITF-6	102
ITF-14	103
Deutsche 14	104
Deutsche 14 を工場出荷時設定に戻す	104
有効 / 無効 eutsche 14	104
Deutsche 12	105
Deutsche 12 を工場出荷時設定に戻す	105
有効 / 無効 Deutsche 12	105
COOP 25 (Japanese Matrix 2 of 5)	106
COOP 25 (Japanese Matrix 2 of 5) を工場出荷時設定に戻す	106
有効 / 無効 COOP 25	106
チェックデジットの確認設定	107
COOP 25 の桁数設定	108
Matrix 2 of 5 (European Matrix 2 of 5)	109
Matrix 2 of 5 (European Matrix 2 of 5) を工場出荷時設定に戻す	109

有効 / 無効 Matrix 2 of 5	109
チェックデジットの確認設定	110
Matrix 2 of 5 の桁数設定	111
Industrial 25	112
Industrial 25 を工場出荷時設定に戻す	112
有効 / 無効 Industrial 25	112
チェックデジットの確認設定	113
Industrial 25 の桁数設定	114
Standard 25	115
Standard 25 を工場出荷時設定に戻す	115
有効 / 無効 Standard 25	115
チェックデジットの確認設定	116
Standard 25 の桁数設定	117
Code 39	118
Code 39 を工場出荷時設定に戻す	118
有効 / 無効 Code 39	118
チェックデジットの確認設定	119
スタート / ストップ キャラクターの送信	119
有効 / 無効 Code 39 Full ASCII	120
Code 39 の桁数設定	121
Code32 (イタリアの薬品コード)	122
Code 32 プリフィックス	122
Code 32 スタート / ストップ キャラクターの送信	123
Code 32 チェックデジットの送信	123
Codabar (NW7)	124
Codabar (NW7) を工場出荷時設定に戻す	124
有効 / 無効 Codabar (NW7)	124
Codabar (NW7) のチェックデジット確認設定	125
スタート / ストップ キャラクター	126
Codabar (NW 7) の桁数設定	127
Code 93	128
Code 93 を工場出荷時設定に戻す	128
有効 / 無効 Code 93	128
チェックデジットの確認設定	129

Code 93 の桁数設定	130
Code 11	131
Code 11 を工場出荷時設定に戻す	131
有効 / 無効 Code 11	131
チェックデジットの確認設定	132
Code 11 の桁数設定	133
Plessey	134
Plessey を工場出荷時設定に戻す	134
有効 / 無効 Plessey	134
チェックデジットの確認設定	135
Plessey の桁数設定	136
MSI-Plessey	137
MSI-Plessey を工場出荷時設定に戻す	137
有効 / 無効 MSI-Plessey	137
チェックデジットの確認設定	138
MSI-Plessey の桁数設定	139
GS1 Databar	140
GS1 Databar を工場出荷時設定に戻す	140
有効 / 無効 GS1 Databar	140
GS1 AI 識別子 () 付加出力	140
第七章 データフォーマット	141
イントロダクション	141
バーコードによるプログラミング	142
シリアルコマンドによるプログラミング	144
有効 / 無効 データフォーマット	145
不一致エラービープ音	146
複数データフォーマット	147
データフォーマットの選択	148
シングルスキャンのデータフォーマットの変更	149
データフォーマットの消去	150
データフォーマットの確認	150
フォーマット コマンド	151
移動コマンド	157
検索コマンド	159
その他のコマンド	163
付録	168
工場出荷時設定	168

AIM ID Table.....	174
Code ID Table	175
ASCII Table	176
ASCII ファンクションキーマッピングテーブル	180
各種バーCode ID ナンバー	182
Unicode キーマップ	183
バーコードの保存/取り消し	186



@SETUPN1
Enter Setup

はじめに

はじめに

BC-NL1100U ロングレンジバーコードリーダーは、バーコードリーダーの新しい時代をもたらします。

BC-NL1100U の 2D バーコード・デコーダ・チップは、低消費電力で優れた性能と信頼性を提供します。

GS1-DataBar™ (RSS) (Limited / Stacked / Expanded バージョン) だけでなく、すべての 1D および、標準 2D バーコードシンボル (PDF417、QR コード M1 / M2 / Micro、データマトリックス) を読取れ、様々な媒体 (紙、プラスチックカード、携帯電話、LCD ディスプレイ) 上のバーコードを読み取ることができます。

ユーザーガイドについて

ユーザーガイドでは、BC-NL1100U のプログラミング手順を説明します。

BC-NL1100U は、通常使用であれば、ユーザーガイドの設定を使用することなく使用することができますが、ユーザーガイドに含まれているプログラミング用バーコードをスキャンする事で、BC-NL1100U の高度な設定が可能です。

出荷時の工場設定については、付録 1: 出荷時の設定確認、デフォルト表を参考にしてください

ユーザーガイド内の、アスタリスク(**)は工場出荷時のデフォルト値を表しています。

イントロダクション

このマニュアルでは、NLS-BC-NL1100U ロングレンジバーコードリーダー (以下、「BC-NL1100U」または「スキャナ」と呼ぶ) の設定および使用方法について詳しく説明しています。



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

Enter Setup

章の説明

第一章, スタートガイド:	この章では、配線手順と基本的な操作を含むスキャナの一般的な説明を示します。
第二章, 全般設定:	この章では、バーコードプログラミング、コマンドプログラミング、イーजीセットプログラミングの3つの方法を紹介합니다
第三章, クエリコマンド:	この章では、プログラミングバーコードをスキャンしてスキャナの情報を取得する方法について説明します。
第四章, 通信設定:	この章では、RS-232 および USB パラメータの設定方法について説明します。
第五章, プリフィックス・サフィックス:	この章では、プリフィックスとサフィックスを使用してスキャンしたデータをカスタマイズする方法について説明します。
第六章, 各種バーコード:	この章では、各種バーコードのパラメータを設定方法について説明します。
第七章, データフォーマット:	この章では、データフォーマットソフトでスキャンしたデータをカスタマイズする方法について説明します。
付録:	工場出荷時の設定テーブルと頻繁に使用されるプログラミング用バーコードについて説明します。

。

マニュアルについて

本マニュアルは、BC-NL1100U の幅広い使用方法に関する情報が含まれています。

クイックスタートガイド

スキャナを起動して実行する方法を説明し、基本的な操作を紹介します。

ユーザーガイド

スキャナの使用法と設定方法を説明しています。



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

第一章 スタートガイド

イントロダクション

BC-NL1100U スキャナは、すべての一般的な 1D 各種バーコードをサポートする優れた性能を備えた 1D バーコードスキャナです。BC-NL1100U スキャナは、迅速な画像取得と正確な読取りを実現します。最高のサービスを提供することができます。BC-NL1100U スキャナは人間工学に基づいた設計を採用しており、簡単に快適な操作が可能です。

この章では、BC-NL1100U スキャナの図解を紹介します。手元にある BC-NL1100U デバイスをお持ちの場合は、このマニュアルをよりよく理解するために、このデバイスを十分に活用してください。この章は、通常のユーザー、保守スタッフ、およびソフトウェア開発者向けに書かれています。

開梱について

パッケージを開き、BC-NL1100U スキャナと付属品を取り出します。梱包リストのすべてが存在し、損なわれていないことを確認してください。内容が破損していたり、紛失している場合は、元のパッケージを保管し、販売店にご連絡ください。



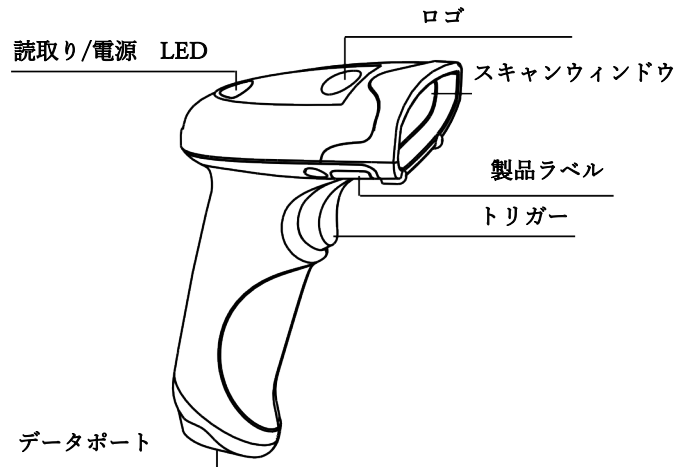
@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

Enter Setup

BC-NL1100U スキャナ

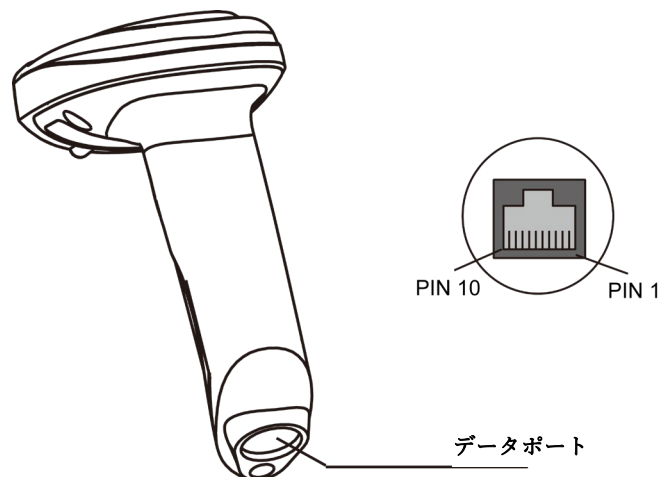


読み取り / 電源 LED:

赤色: デバイスの電源投入時

緑色: バーコードの読み取り時

データポートのピン配置



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

データポートのピン配置(工場出荷時の設定):

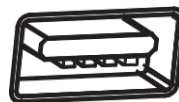
PIN	シグナル	タイプ	説明
1	NC	-	接続されていません
2	NC	-	接続されていません
3	VCC	P	電源+ (+5V)
4	TXD	O	RS-232 出力
5	RXD	I	RS-232 入力
6	CTS	I	フロー制御信号
7	RTS	O	
8	GND	P	グラウンド
9	D-	I/O	USB シグナル
10	D+	I/O	

スキャナをホストに接続する

スキャナは、通信ケーブル(USB または RS-232 ケーブル)を使用して、PC、POS、または USB または RS-232 ポートを備えた任意の端末に接続する必要があります。

USB

ホストの USB ポート



RS-232

ホストの RS-232 ポート



注:ホストのポートを確認し、それに応じてモデルを購入してください。



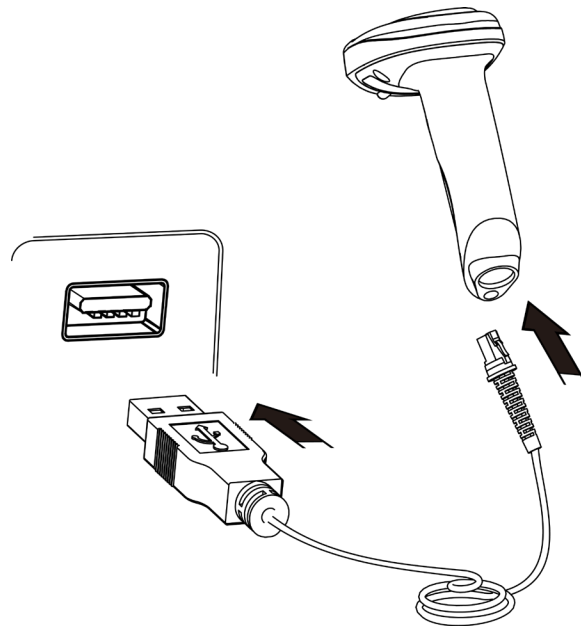
@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

Enter Setup

USB ケーブル



本製品の USB ケーブルをホストに接続します。

1. RJ45 コネクタをスキャナのデータポートに差し込みます。
2. USB コネクタをホストの USB ポートに差し込みます。



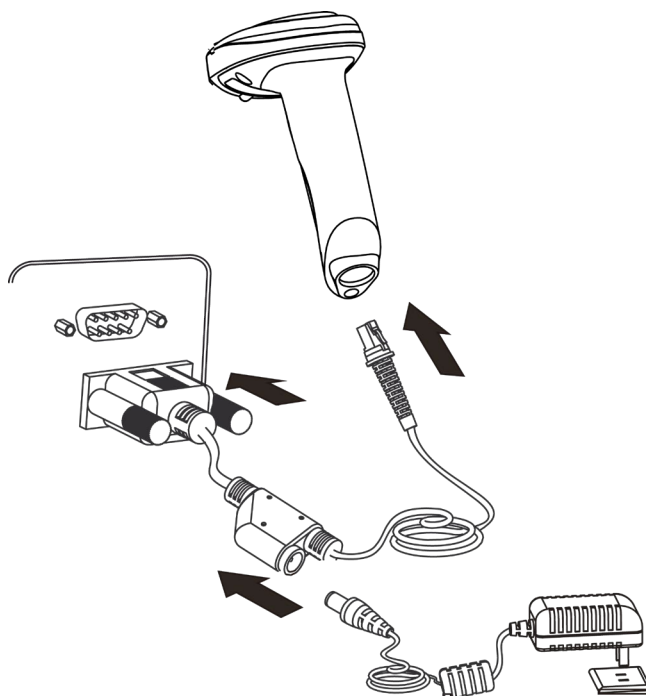
@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

RS-232



RJ45、RS-232、および電源コネクタ付き RS-232 ケーブルを使用して、スキャナをホストに接続します。

1. RJ45 コネクタをスキャナのデータポートに差し込みます。
2. RS-232 コネクタをホストの RS-232 ポートに差し込みます。
3. 付属の電源アダプタを RS-232 ケーブルの電源コネクタに接続します。



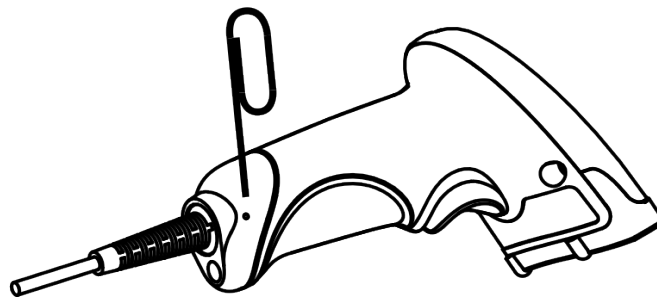
@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

Enter Setup

通信ケーブルの取り外し



針やクリップをまっすぐにしたをご用意ください。以下の手順で取り外します。:

RS-232 モデルなど電源アダプタがある場合は、電源アダプタを電源から外します。

穴にピンを挿入します。

ピンを押し込みながら、スキャナからケーブルをゆっくり引き出します。

ピンを取り外します。

ホストからケーブルを外します。



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

電源オン/オフ、スリープ、リブート

スキャナへ電源を入れる

スキャナをホストに接続します。スキャナがオンになり、自動的にスリープモードに入ります。

スキャナの電源を切る

スキャナの電源を切るには、次の 4 つの方法があります。

- ✧ 通信ケーブルをスキャナからは取り外します。
- ✧ 通信ケーブルをホストから取り外します。
- ✧ 電源アダプタを電源から外します。
- ✧ 第 2 章の「動作モードオプション」セクションの電源オフバーコードをスキャンします。

スリープモードに入る

スキャナが何も操作されないと、スキャナは自動的にスリープ状態になります。

スキャナを再起動する

スキャナが入力に応答しなくなったり異常動作をした場合、スキャナの USB ケーブルを抜いて、USB ケーブルを差し込んでください。RS-232 モデルの場合は、電源アダプタのケーブルを抜き差ししてください。



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

Enter Setup

メンテナンス

1. スキャンウィンドウをきれいに保つ必要があります。
2. スキャンウィンドウを傷つけないでください。
3. ソフトブラシなどを使用して、スキャンウィンドウから汚れを取り除きます。
4. 眼鏡クリーニングクロスなどの柔らかい布を使用して、スキャンウィンドウをきれいにします。
5. スキャンウィンドウに液体をスプレーしないでください。
6. 洗浄するために洗剤を使用しないでください。

注: 保証は、不適切なケアおよびメンテナンスに起因する損害には適用されません。



@SETUPN0

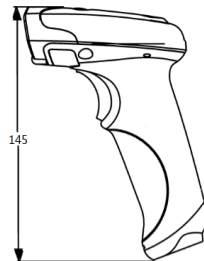
Exit Setup



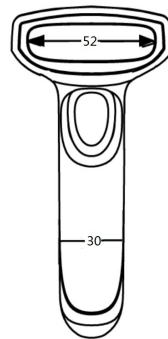
@SETUPN1
Enter Setup

寸法図 (単位: mm)

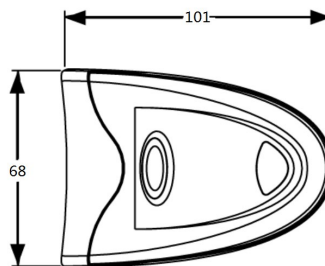
側面



前面



上面



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

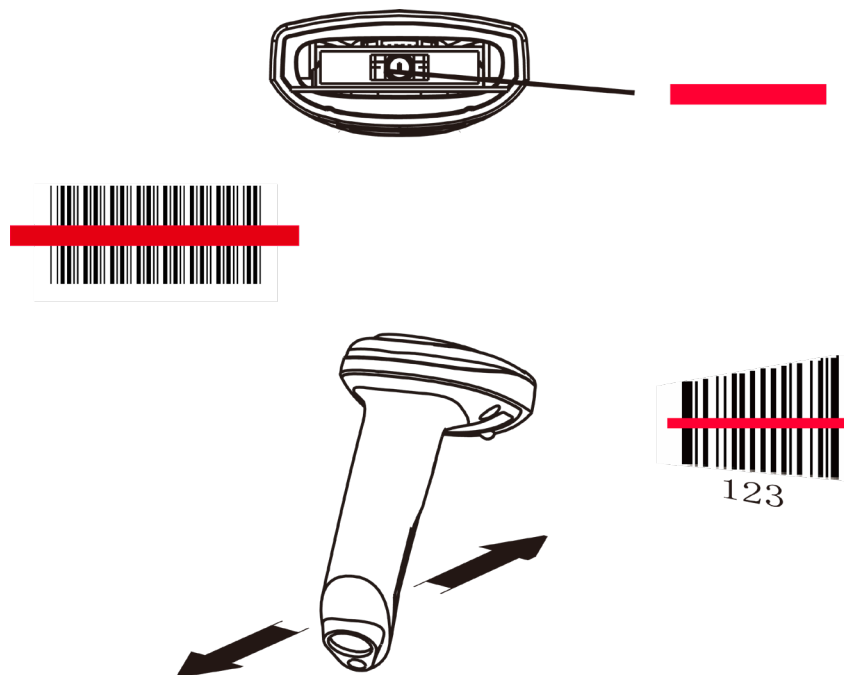
Enter Setup

スキャン手順

スキャナが手動スキャンモードになっているときは、以下の手順でバーコードをスキャンできます。

- 1.トリガーを押し続けます。スキャナは赤い照準ビームを投射します。
- 2.次のように、赤いビームをバーコードの中央に向けます。
- 3.赤色のビームが消えると、トリガーを放します。バーコードが正常に復号化されると、スキャナは読取り成功時ビープを発し、復号化されたデータはホストに送信されます。

注:同じバッチのバーコードの場合、スキャナーは一定の距離で非常に高い成功率を維持し、これが最適なスキャニング距離とみなされます。



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

第二章 全般設定

イントロダクション

BC-NL1100U の設定には、バーコードプログラミング、コマンドプログラミング、イーजीセットプログラミングの 3 つの方法があります。

バーコードプログラミング

BC-NL1100U はプログラミングバーコードをスキャンすることで設定できます。すべてのユーザプログラマブル機能/オプションは、以下のセクションのプログラミングバーコード/コマンドとともに説明されています。

このプログラミング方法は最も簡単です。ただし、手動でバーコードをスキャンする必要があります。その結果、エラーが発生しやすくなります。

コマンドプログラミング

BC-NL1100U は、ホストから送信されるシリアルコマンド (HEX) で設定することもできます。

ユーザは、アプリケーションプログラムを設計して、それらのコマンド文字列をスキャナに送信してデバイス構成を実行することができます。

イーजीセットプログラミング

上記の 2 つの方法以外にも、イーजीセットを使用してスキャナの設定を行うことができます。イーजीセットは、Windows 用の設定ツールです。ユーザーは、読取りされたデータにアクセスしたり、スキャナを設定したりすることができます。このツールの詳細については、「イーजीセットユーザーガイド」を参照してください。



@SETUPN0
Exit Setup



14



@SETUPN1
Enter Setup

プログラミングコマンドの使用

バーコードプログラミング方法の他に、ホストから送信されるシリアルコマンド(HEX)によってスキャナを構成することもできます。すべてのコマンドは、大文字で入力する必要があります。

コマンド構文

プリフィックス 保管タイプ タグ サブタグ {データ} [,サブタグ {データ}] [: タグ サブタグ{データ}] [...]サフィックス

プリフィックス: “~<SOH> 0000”(HEX:7E 01 30 30 30 30)、6 文字。

保管タイプ: “@”(HEX:40)または “#”(HEX:23)、1 文字。「@」は、スキャナの電源を切ったり再起動しても失われない永続的な設定を意味します。“#”は一時的な設定で、スキャナの電源を切ったりリブートしたりすることで失われます。

タグ:3 桁の大文字と小文字を区別するフィールドで、目的のコマンドグループを識別します。たとえば、すべての USB HID-KBW 構成設定は KBW のタグで識別されます。

サブタグ:タググループ内の目的のパラメータを識別する 3 文字の大文字小文字を区別するフィールド。たとえば、キーボードレイアウトの SubTag は CTY です。

データ:タグおよびサブタグによって識別されるフィーチャまたはパラメータ設定の値。

サフィックス: “; <ETX>”(HEX:3B 03)、2 文字。

1 つのプリフィックス/サフィックスシーケンス内で複数のコマンドを発行することができます。コンフィギュレーションコマンドの場合、各コマンドに対してタグ、サブタグ、およびデータフィールドのみを順番に繰り返す必要があります。追加のコマンドを同じタグに適用する場合、コマンドはカンマ(,)で区切られ、追加コマンドのサブタグおよびデータフィールドのみが発行されます。追加のコマンドに別のタグフィールドが必要な場合、コマンドは前のコマンドとセミコロン(;)で区切られます。



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

クエリコマンド

クエリコマンドの場合、上記の構文のデータフィールドのエントリーは、次のいずれかの文字の意味です。

*(HEX:2A) スキャナの現在の設定値は何ですか？

&(HEX:26) 設定の工場出荷時のデフォルト値は何ですか？

^(HEX:5E) 可能な値の範囲は何ですか？

クエリコマンドのストアタイプフィールドの値は、"@"(HEX:40)または"#"(HEX:23)のいずれかになります。

サブタグフィールドが省略されたクエリコマンドは、タグに関するすべての設定を照会することを意味します。たとえば、**Code 11**に関するすべての現在の設定を照会するには、**7E 01 30 30 30 30 40 43 31 31 2A 3B 03**と入力します(～<SOH> 0000 @ C11 *; <ETX>)。

レスポンス

コマンドシーケンスとは異なり、レスポンスのプリフィクスは "<STX> <SOH> 0000"(HEX:02 01 30 30 30 30)の 6 文字で構成されています。

スキャナは、次の 3 つの応答のいずれかを使用してシリアルコマンドに応答します。

<ACK>(HEX:06) 処理された正常なコマンドを示します。

<NAK>(HEX:15) この Tag および SubTag の組み合わせの許容範囲外のデータフィールドエントリーを持つ適切な構成コマンドを示します(たとえば、フィールドが 2 桁のみを許可する場合のキーストローク間遅延のエントリー)、無効なクエリコマンドです。

<ENQ>(HEX:05) タグまたはサブタグのコマンドが無効であることを示します。

応答すると、スキャナはコマンド内の各句読点(カンマまたはセミコロン)の直前に挿入された上記ステータス文字を含むコマンドシーケンスを返します。

例



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

例 1: Code 11 を有効にし、最小と最大の長さをそれぞれ 12 と 22 に設定します。

入力: 7E 01 30 30 30 30 40 43 31 31 45 4E 41 31 2C 4D 49 4E 31 32 2C 4D 41 58 32 32 3B 03

(~<SOH> 0000 @ C11ENA1、MIN12、MAX22; <ETX>)

レスポンス: 02 01 30 30 30 30 40 43 31 31 45 4E 41 31 06 2C 4D 49 4E 31 32 06 2C 4D 41 58 32 32 06 3B 03

(<STX> <SOH> 0000 @ C11ENA1 <ACK>、MIN12 <ACK>、MAX22 <ACK>、<ETX>)

例 2: Code 11 の現在の最小桁数と最大桁数を問い合わせます。

入力: 7E 01 30 30 30 30 40 43 31 31 4D 49 4E 2A 2C 4D 41 58 2A 3B 03

(~<SOH> 0000 @ C11MIN *, MAX *; <ETX>)

レスポンス: 02 01 30 30 30 30 40 43 31 31 4D 49 4E 31 32 06 2C 4D 41 58 32 32 06 3B 03

(<STX> <SOH> 0000 @ C11MIN12 <ACK>、MAX22 <ACK>、<ETX>)



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

BEL キャラクターのビープ音

ホストから送信されたコマンドに応じてビープ音を鳴らすことができます。次のコマンドでこの機能をオンにすると、ホストから<BEL>文字を受信するたびにスキャナからビープ音が鳴ります。<BEL>は、エラーまたは他の重要なイベントに対するユーザーの注意を得るために発行されます。この設定は一時的に使用するためのもので、スキャナの電源を切ったり、電源を切ったりリブートしたりすると失われます。

BEEPONxxFyyT (xx: 希望する周波数、1~20000Hz; yy: 希望する時間 1~20000ms)

例: ビープ音の周波数を 2000Hz に設定し、音量を 50ms に設定します

入力: 7E 01 30 30 30 30 40 42 45 45 50 4F 4E 32 30 30 30 46 35 30 54 3B 03

(~<SOH> 0000 #BEEPON2000F50T; <ETX>)

レスポンス: 02 01 30 30 30 30 40 42 45 45 50 4F 4E 32 30 30 30 46 35 30 54 06 3B 03

(<STX> <SOH> 0000 #BEEPON2000F50T <ACK>; <ETX>)



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

プログラミングバーコードの使用

「Enter Setup」バーコードをスキャンすると、スキャナがセットアップモードに入ることができます。次に、プログラミング用のバーコードをスキャンしてスキャナを設定します。

BC-NL1100U はデフォルトでセットアップモードになっています。実際のアプリケーションでは、バーコードのプログラミングはプログラミングされていないバーコードとほとんど重ならないので、設定を終了するたびにセットアップモードを終了する必要はありません。

一部の機能またはオプションには、数値バーコードのスキャンを必要とするパラメータ値の設定が含まれている場合があります。数字のバーコードを検索するには、付録の「数値バーコード」を参照してください。

スキャナは、以下の適切なバーコードをスキャンすることによって、プログラミングバーコードデータ（すなわちプログラミングコマンド）をホストに送信するか、または送信しないように構成することができます。既定では、[プログラミングバーコードデータを送信しない]オプションが有効になっています。スキャナの再起動/再起動は、このパラメータをデフォルト値にリセットしますので注意してください。



#SETUPT0

**** Do Not Send the Programming Barcode Data**



#SETUPT1

Send the Programming Barcode Data

工場出荷時設定

次のバーコードをスキャンすると、工場出荷時の設定に戻すことができます。詳細は付録の「工場出荷時設定表」を参照してください。

注意: この機能は慎重に使用してください。



@FACDEF

すべての設定を工場出荷時設定に戻す



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

カスタム 初期設定

カスタム設定は頻繁に使用される設定をスキャナに保存することを可能にします。

「ユーザーデフォルトとして保存」バーコードは、現在の設定をカスタムデフォルトとして保存できます。「カスタムデフォルトへ復元」バーコードをスキャンすることで、いつでも元の設定にもどることが出来ます。

カスタムデフォルトは不揮発性メモリに保存されます。スキャナを工場出荷時設定に戻してもスキャナのデフォルト値は削除されません。



@CUSSAV

カスタムデフォルトとして保存



@CUSDEF

カスタムデフォルトへ復元

注意: カスタム初期設定で異なる通信インターフェイス(USB HID-KBW など)が使用されている場合は、スキャナを再起動して[カスタムデフォルトへ復元]バーコードをスキャンした後に変更を有効にする必要があります。



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

オペレーティングモード オプション



@PWROFF
Power Off¹



@PWRDSP
Deep Sleep Mode²



@PWRSLP
Light Sleep Mode³



@REBOOT
Reboot Scanner

注:1 上記バーコードで電源を切ったスキャナは、起動することができません。これを元に戻すには、ホストから接続を外してから、再接続します。

2 スキャナを起動させるには、トリガーを引きます。

3 スキャナを起動させるには、トリガーを引くか、スキャナと通信します。

ディープスリープモードとライトスリープモードは、一時的にしか使用できません。スキャナの電源を切ったり、再起動すると無効になります。



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

スキャンモード

マニュアルモード

マニュアルモード(初期設定):トリガーを引くことで読取り開始します。読取りは、バーコードが読取るか、トリガーを解放するか読取りのタイムアウトになるまで続きます(デフォルト:15 秒、ユーザープログラムブル)。



@SCNMOD1

** マニュアルモード

読取りタイムアウト

読取りタイムアウト:このパラメータは、スキャン試行中に読取りが継続する最大時間を設定します。1,000ms から 15,000ms までの 1,000ms 刻みでプログラム可能です。0 に設定すると、タイムアウトは無限になります。デフォルトのタイムアウトは 15,000ms です。

このパラメータをプログラムするには、「読取りタイムアウト」バーコード、「数値バーコード」、および「保存」バーコードをスキャンします。数字のバーコードは、付録の「数字バーコード」を参照してください。



@ORTSET

読取りタイムアウト

例:読取りタイムアウトを 2,000ms に設定する

1. 「Enter Setup」バーコードをスキャンします。。
2. 「読取りタイムアウト」バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数値バーコード」の「2」、「0」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
5. 「Exit Setup」バーコードをスキャンします。



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

自動スリープ

自動スリープでは、一定時間操作または通信が行われないと、マニュアルモードのスキヤナが自動的にライトスリープモードに入ります(ユーザプログラマブル)。スキヤナがライトスリープモードになっているときに、ホストからトリガーを押すか、またはコマンドを受信すると、スキヤナが起動されます。



@ATIDLE1
** 有効 自動スリープ



@ATIDLE0
無効 自動スリープ

以下のパラメータは、ライトスリープモードに入る前のスキヤナのアイドル状態(操作なしまたは通信中)の長さを指定します。0ms から 6,000ms まで 1ms 刻みでプログラム可能です。デフォルト設定は 500ms です。



@ATIDUR
スリープまでの時間

例:スリープまでの時間を 1000ms に設定する

- 1.「Enter Setup」バーコードをスキャンします。。
- 2.「スリープまでの時間」バーコードまでの期間をスキャンします。
- 3.付録の「数値バーコード」の「1」、「0」、「0」、「0」をスキャンします。
- 4.付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。。
5. 「Exit Setup」バーコードをスキャンします。



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

バッチモード

トリガーを引くことにより、複数回読取りを行います。トリガーを放すまで、トリガーを放すまで、複数回のスキャンが続きます。ただし、次にトリガーを引くまで同じバーコードを読み返すことはできません。



@SCNMOD12

Batch Mode

読取りタイムアウト

読取りタイムアウト: このパラメータは、スキャン試行中に読取りが継続する最大時間を設定します。1,000ms から 15,000ms までの 1,000ms 刻みでプログラム可能です。0 に設定すると、タイムアウトは無限になります。デフォルトのタイムアウトは 15,000ms です。

このパラメータをプログラムするには、「読取りタイムアウト」バーコード、「数値バーコード」、および「保存」バーコードをスキャンします。「数値バーコード」は、付録の「数値バーコード」を参照してください。



@ORTSET

読取りタイムアウト

例: 読取りタイムアウトを 2,000ms に設定する

1. 「Enter Setup」バーコードをスキャンします。
2. 「読取りタイムアウト」バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数値バーコード」の「2」、「0」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
5. 「Exit Setup」バーコードをスキャンします。



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

オートモード

オートモード:トリガーを引くことで、読取りが開始されます。読取り時は、バーコードが読み取られるか、または読取り時のタイムアウトが満了するまで続きます(デフォルト:15 秒、ユーザプログラマブル)。トリガーをもう一度引くまで、スキャナは自動的に1つのセッションを開始します。



@SCNMOD8
Auto Mode

読取りタイムアウト

読取りタイムアウト:このパラメータは、スキャン試行中に読取りが継続する最大時間を設定します。1,000ms から 15,000ms までの 1,000ms 刻みでプログラム可能です。0 に設定すると、タイムアウトは無限になります。デフォルトのタイムアウトは 15,000ms です。

このパラメータをプログラムするには、「読取りタイムアウト」バーコード、「数値バーコード」、および「保存」バーコードをスキャンします。「数値バーコード」は、付録の「数値バーコード」を参照してください。。



@ORTSET
読取りタイムアウト

例:読取りタイムアウトを 2,000ms に設定する

1. 「Enter Setup」バーコードをスキャンします。。
2. 「読取りタイムアウト」バーコードをスキャンします。。
3. 付録の「数値バーコード」の「2」、「0」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。。
5. 「Exit Setup」バーコードをスキャンします。



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

読取り間隔タイムアウト (同じバーコード)

読取り間隔タイムアウト(同じバーコード)は、一定時間内に同じバーコードが望ましくない再読みをしないようにすることができます。

読取り間隔タイムアウト(同じバーコード)を有効または無効にするには、下の適切なバーコードをスキャンします。

有効 読取り間隔タイムアウト (同じバーコード):読取り間隔タイムアウト(同じバーコード)が切れる前にスキャナが同じバーコードを再読み取りすることを許可しないでください。

無効 読取り間隔タイムアウト (同じバーコード):読取り間隔タイムアウト(同じバーコード)を無視して、スキャナが同じバーコードを再読み取りできるようにします。



@RRDENA0

** 無効 読取り間隔タイムアウト (同じバーコード)



@RRDENA1

有効 読取り間隔タイムアウト (同じバーコード)

次のバーコードは、「読取り間隔タイムアウト (同じバーコード)」を設定します。0ms から 12,000ms ま で 100ms 刻みでプログラム可能です。12700 に設定すると、タイムアウトは無限になります。デフォルト設定は 400ms です。



@RRDDUR

読取り間隔タイムアウト (同じバーコード)

例: 読取り間隔タイムアウト(同じバーコード)を 1,000ms に設定する

1. 「Enter Setup」バーコードをスキャンします。。
2. 「読取り間隔タイムアウト (同じバーコード)」をスキャンします。
3. 付録の「数値バーコード」の「1」、「0」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。。
5. 「Exit Setup」バーコードをスキャンします。



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

ブリンクモード

ブリンクモード: スキャナが自動的に読取りを開始します。読取りは、バーコードがスキャンされるか、または読取りのタイムアウトが切れる (100ms) まで続きます。読取りが完了すると、読取り間のタイムアウトが満了するまで待機し (デフォルト: 1 秒)、次のセッションを開始します。スキャナはこのパターンで動作し続けます。

トリガーを押すと、読取りをアクティブにすることもできます。トリガーを押し続けると、読取りを中断できます。



@SCNMOD9
ブリンクモード

読取り間隔タイムアウト

読取り間隔タイムアウト: このパラメータは、1 つの読取り終了から次のセッションの開始までの時間を設定します。0ms から 7,500ms まで 500ms 刻みでプログラム可能です。デフォルトのタイムアウトは 0ms です。このパラメータをプログラムするには、「読取り間隔タイムアウト」バーコード、「数字バーコード」、および保存バーコードをスキャンします。



@SCNINV
読取り間隔タイムアウト

例: 読取り間隔タイムアウトを 1,000ms に設定する

1. 「Enter Setup」バーコードをスキャンします。
2. 「読取り間隔タイムアウト」をスキャンします。
3. 付録の「数値バーコード」の「1」、「0」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
5. 「Exit Setup」バーコードをスキャンします。



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

センスモード

センスモード: スキャナは、周辺照明の変化を検出するたびに読取りを開始します。(読取り間隔タイムアウトが切れる前に変更が検出された場合を除く)。

読取り時は、バーコードが読み取られるか、読取りタイムアウトが切れるまで続きます。センスモードでは、トリガーを引くことで読取りを開始することもできます。読取り時は、バーコードが読み取られるか、またはトリガーが解放されるまで続きます。セッションが終了すると、スキャナは周辺照明を監視し続けます。



@SCNMOD2

センスモード

読取りタイムアウト

読取りタイムアウト: このパラメータは、スキャン試行中に読取りが継続する最大時間を設定します。1,000ms から 15,000ms までの 1,000ms 刻みでプログラム可能です。0 に設定すると、タイムアウトは無限になります。デフォルトのタイムアウトは 15,000ms です。

このパラメータをプログラムするには、「読取りタイムアウト」バーコード、「数値バーコード」、および「保存」バーコードをスキャンします。「数値バーコード」は、付録の「数値バーコード」を参照してください。



@ORTSET

読取りタイムアウト

例: 読取りタイムアウトを 2,000ms に設定する

1. 「Enter Setup」バーコードをスキャンします。
2. 「読取りタイムアウト」バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数値バーコード」の「2」、「0」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
5. 「Exit Setup」バーコードをスキャンします。



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

読取り間隔タイムアウト

読取り間隔タイムアウト:このパラメータは、1つの読取り時の終了から次のセッションの開始までの時間を設定します。0ms から 7,500ms まで 500ms 刻みでプログラム可能です。デフォルトのタイムアウトは 0ms です。このパラメータをプログラムするには、「取り間隔タイムアウト」バーコード、「数字バーコード」、および「保存」バーコードをスキャンします。



@SCNINV
読取り間隔タイムアウト

例: 読取り間隔タイムアウトを 1,000ms に設定する

1. 「Enter Setup」バーコードをスキャンします。
2. 「読取り間隔タイムアウト」をスキャンします。
3. 付録の「数値バーコード」の「1」、「0」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
5. 「Exit Setup」バーコードをスキャンします。



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

感度設定

感度は、周辺照明の変化に対するスキャナの応答の鋭さの程度を指定します。感度が高ければ高いほど、照明を変化させてスキャナをトリガーを引く必要性が低くなります。周囲環境に適した適切な感度を選択できます。



@SENLVL3

**** 感度 高**



@SENLVL10

感度 低



@SENLVL5

感度 中



@SENLVL

感度 カスタム

上記、感度 高・中・低のいずれかで問題無い場合、「感度 カスタム」を設定しないことをお勧めします。

注:感度設定:レベル 0-15。数値が小さいほど感度が高くなります。

例:感度をレベル 5 に設定する

1. 「Enter Setup」バーコードをスキャンします。
2. 「感度 カスタム」バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数値バーコード」の「5」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
5. 「Exit Setup」バーコードをスキャンします。



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

読取り間隔タイムアウト(同じバーコード)

読取り間隔タイムアウト(同一バーコード)は、一定時間内に同じバーコードが望ましくない再読みをしないようにすることができます。0msから12,000msまで100ms刻みでプログラム可能です。12700に設定すると、タイムアウトは無限になります。デフォルト設定は400msです。



読取り間隔タイムアウト (同じバーコード)

例: 読取り間隔タイムアウト(同じバーコード)を1,000msに設定する

1. 「Enter Setup」バーコードをスキャンします。
2. 「読取り間隔タイムアウト (同じバーコード)」バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数値バーコード」の「1」、「0」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
5. 「Exit Setup」バーコードをスキャンします。



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

連続モード

連続モード: スキャナは自動的に読取りを開始します。読取りは、バーコードが読み取られるまで続きます。スキャン成功時には、読取り間隔タイムアウトが満了してから次のセッションが開始されるまで、スキャナは待機します。読み取り不良の場合、スキャナはバーコードが読み取られるまでバーコードの読取りを続けます。

トリガーを保持すると、スキャナーが連続的に読取りされますが、間隔はありません（読取り間隔タイムアウトは無視されます）。



@SCNMOD10

Continuous Mode

読取り間隔タイムアウト読取り間隔タイムアウト

読取り間隔タイムアウト: このパラメータは、1つの読取り時の終了から次のセッションの開始までの時間を設定します。0ms から 7,500ms まで 500ms 刻みでプログラム可能です。デフォルトのタイムアウトは 0ms です。このパラメータをプログラムするには、「読取り間隔タイムアウト」バーコード、「数字バーコード」、および「保存」バーコードをスキャンします。



@SCNINV

読取り間隔タイムアウト

例: 読取り間隔タイムアウトを 1,000ms に設定する

1. 「Enter Setup」バーコードをスキャンします。
2. 「読取り間隔タイムアウト」のバーコードを読み取ります。
3. 付録の「数値バーコード」の「1」、「0」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
5. 「Exit Setup」バーコードをスキャンします。



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

読取り間隔タイムアウト(同じバーコード)

読取り間隔タイムアウト(同じバーコード)は、一定時間内に同じバーコードが望ましくない再読みをしないようにすることができます。

読取り間隔タイムアウト(同じバーコード)を有効または無効にするには、下の適切なバーコードをスキャンします。

有効 読取り間隔タイムアウト (同じバーコード):読取り間隔タイムアウト(同じバーコード)が切れる前にスキャナが同じバーコードを再読み取りすることをしません。

無効 読取り間隔タイムアウト (同じバーコード):読取り間隔タイムアウト(同じバーコード)を無視して、スキャナが同じバーコードを再読み取りできるようにします。



@RRDENA0



@RRDENA1

**** 無効 読取り間隔タイムアウト (同じバーコード)**

有効 読取り間隔タイムアウト (同じバーコード)

次のバーコードは、「読取り間隔タイムアウト (同じバーコード)」を設定します。0ms から 12,000ms まで 100ms 刻みでプログラム可能です。12700 に設定すると、タイムアウトは無限になります。デフォルト設定は 400ms です。



@RRDDUR

読取り間隔タイムアウト (同じバーコード)

例: 読取り間隔タイムアウト(同じバーコード)を 1,000ms に設定する

1. 「Enter Setup」バーコードをスキャンします。。
2. 「読取り間隔タイムアウト (同じバーコード)」のバーコードを読み取ります。。
3. 付録の「数値バーコード」の「1」、「0」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。。
5. 「Exit Setup」バーコードをスキャンします。



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

コマンドトリガーモード

コマンドトリガーモード: スキャナは、"7E 01 30 30 30 30 40 53 43 4E 43 54 4D 31 3B 03" (～<SOH> 0000 @ SCNCTM1; <ETX>) のコマンド文字列を受信するか、「開始 トリガーシミュレーション」バーコードをスキャンして読取りします。読取りは、バーコードが読み取られるか、または読取りタイムアウトが切れるか、またはスキャナが "7E 01 30 30 30 30 40 53 43 4E 43 54 4D 30 3B 03" のコマンド文字列を受信するまで続きます (～<SOH> 0000 @ SCNCTM0; <ETX>)、または「停止 トリガーシミュレーション」バーコードをスキャンします。

スキャナが "7E 01 30 30 30 30 40 53 43 4E 43 54 4D 30 3B 03" のコマンド文字列 (～<SOH> 0000 @ SCNCTM0; <ETX>) を受信した場合、または読取り中に「停止 トリガーシミュレーション」バーコードをスキャンした場合、すぐに読取り時を停止します。



@SCNMOD11

コマンド トリガーモード



@SCNCTM1

開始 トリガーシミュレーション



@SCNCTM0

停止 トリガシミュレーション

注: コマンドトリガモードは、スキャナが RS-232 または USB COM ポートエミュレーションを使用している場合にのみ使用できます。USB HID-KBW、USB HID-POS または IBM SurePOS 通信を使用しているときにこのスキャンモードを選択すると、スキャナはこの設定を無視して自動的に点滅モードに切り替わります。



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

読取りタイムアウト

読取りタイムアウト:このパラメータは、スキャン試行中に読取りが継続する最大時間を設定します。1,000ms から 15,000ms までの 1,000ms 刻みでプログラム可能です。0 に設定すると、タイムアウトは無限になります。デフォルトのタイムアウトは 15,000ms です。

このパラメータをプログラムするには、「読取りタイムアウト」バーコード、「数値バーコード」、および「保存」バーコードをスキャンします。「数値バーコード」は、付録の「数値バーコード」を参照してください。



@ORTSET
読取りタイムアウト

例:読取りタイムアウトを 2,000ms に設定する

1. 「Enter Setup」バーコードをスキャンします。。
2. 「読取りタイムアウト」バーコードをスキャンします。。
3. 付録の「数値バーコード」の「2」、「0」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。。
5. 「Exit Setup」バーコードをスキャンします。



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

不正な読み取りメッセージ

トリガーが開放される前に読取りが発生していない場合は、下の該当するバーコードをスキャンして、不正な読取りメッセージを送信するかどうかを選択します(ユーザがプログラム可能) または 読取りタイムアウトが切れるか、"7E 01 30 30 30 30 40 53 43 4E 43 54 4D 30 3B 03"(〜<SOH> 0000 @SCNCTM0; <ETX>)のコマンド文字列をスキャナが受信する。この機能は、連続モードでは使用できません。



@NGRENA0

****無効 不正な読み取りメッセージ**



@NGRENA1

有効 不正な読み取りメッセージ

不正な読み取りメッセージには2文字を含めることができます。不正な読み取りメッセージを設定するには、「不正な読み取りメッセージ設定」バーコード、数字バーコード、および「保存」バーコードをスキャンします。デフォルト設定は「無効 不正な読み取りメッセージ」です。



@NGRSET

不正な読み取りメッセージ設定

例:不正な読み取りメッセージを "F"に設定する

1. 「Enter Setup」バーコードをスキャンします。
2. 「不正な読み取りメッセージ設定」バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数値バーコード」の「4」と「6」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
5. 「Exit Setup」バーコードをスキャンします。



@SETUPN0

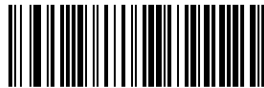
Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

セキュリティ設定

このパラメータは、スキャンの試行中にバーコードを読み取りする回数を指定します。セキュリティレベルが高いほど、エラー率と読み取り効率は低くなります。



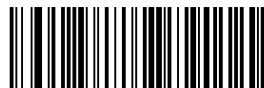
@SAFLVL0

セキュリティレベル 1



@SAFLVL2

セキュリティレベル 3



@SAFLVL1

セキュリティレベル 2



@SAFLVL3

** セキュリティレベル 4

電源投入時のビープ設定

電源を入れたときにビープ音を鳴らすようにスキャナを設定することができます。ビープ音が鳴らないようにするには、「無効 電源投入時のビープ設定」バーコードをスキャンします。



@PWBENA1

**有効 電源投入時のビープ設定



@PWBENA0

無効 電源投入時のビープ設定



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

読取り時ビープ音設定



@GRBENA1

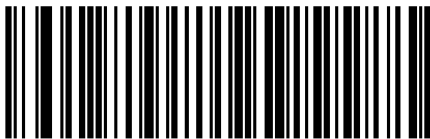
**有効 読取り時ビープ音設定



@GRBENA0

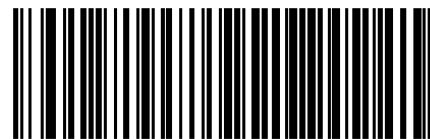
無効 読取り時ビープ音設定

読取り時ビープ音タイプ



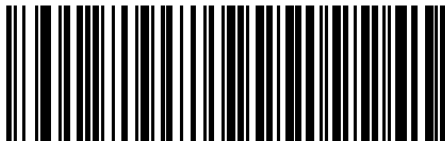
@GRBFRQ800

タイプ 低音



@GRBFRQ2730

** タイプ 中音



@GRBFRQ4200

タイプ 高音



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

読取り時音量



@GRBVOL0

音量 大



@GRBVOL1

音量 中



@GRBVOL2

** 音量 小

読取り時ビープ音長さ



@GRBDUR80

長さ 中 (80ms)



@GRBDUR40

長さ 短 (40ms)



@GRBDUR120

** 長さ 長 (120ms)



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

読取り時 LED 設定



@GRLENA1

** 有効 読取り時 LED



@GRLENA0

無効 読取り時 LED

読取り時 LED 点灯間隔

読取り時 LED 点灯間隔は 0ms から 25,500ms まで 100ms 刻みで設定可能です。デフォルトの持続時間は 100ms です。このパラメータを設定するには、「読取り時 LED カスタム 期間」バーコード、「数字バーコード」、および「保存」バーコードをスキャンします。



@GRLDUR100

** 点灯間隔 短 (100ms)



@GRLDUR200

点灯間隔 中 (200ms)



@GRLDUR300

点灯間隔 長 (300ms)



@GRLDUR400

点灯間隔 延長 (400ms)



@GRLDUR

読取り時 LED カスタム 期間

例: 読み取り成功時の LED 持続時間を 500ms に設定する

1. 「Enter Setup」バーコードをスキャンします。
2. 「読取り時 LED カスタム 期間」をスキャンします。
3. 付録の「数値バーコード」の「5」、「0」、「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
5. 「Exit Setup」バーコードをスキャンします。



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

読み込み時インジケータタイミング

この設定により、読み取り時のインジケータ(ビープ音や LED など)が、正常にデータを送信する前または後に発生するように設定されます。



@GRBTIM0
データ送信後



@GRBTIM1
**データ送信前



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

ACK / NAK オプション

この機能は、スキャナが RS-232 ACK / NAK プロトコルをサポートする機能を有効/無効にします。

有効の場合、スキャナおよび/またはホストは、データを正しく受信すると ACK (デフォルト:<ACK>)を送信し、データにエラーがある場合は NAK (デフォルト:<NAK>)を送信します。この設定は、スキャナが RS-232 または USB COM または USB HID-POS 通信を使用している場合にのみ有効です。

4 つのオプションが用意されています:

無効

バーコード送信 有効: スキャナは、バーコードが送信されたときホストからの ACK または NAK の確認応答を有効にする。

ホストコマンド確認応答 有効: ホストが有効なキャラクター (デフォルト: "E"、ユーザプログラム可能) または無効なキャラクター (デフォルト: "D"、ユーザプログラム可能) を送信すると、スキャナは ACK で応答し、他のキャラクターを送信すると NAK を返します。バーコード送信およびホストコマンド確認応答を有効にする

バーコード送信およびホストコマンド確認応答 有効

注: 必要がない限り、この機能を有効にしないでください。



@ANPENAO

** 無効



@ANPENAI

バーコード送信 有効



@ANPENAI2

ホストコマンド確認応答 有効



@ANPENAI3

バーコード送信およびホストコマンド確認応答 有効



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

ACK / NAK エラー処理

ACK キャラクター待機時の受信エラーについて処理方法を指定できます。

3 つのオプションが用意されています：

検出されたエラーを無視：バーコードが送信された後、ホストが有効または無効の文字を送信すると、スキャナはACKで応答します。ホストから他の文字を受信した場合、スキャナはACKまたはNAK応答を待たなくなります。

有効 ACK キャラクター プロセスエラー：ホストがACKまたはNAK応答ではなく他の文字を送信した場合、バーコードが送信された後、スキャナはそれを有効なACKとして処理します。

有効な NAK キャラクター プロセスエラー：ホストがACKまたはNAK応答ではなく他の文字を送信すると、バーコードが送信された後、スキャナは有効なNAKとして処理します。



**検出されたエラーを無視



有効 **ACK** キャラクター プロセスエラー



有効 **NAK** キャラクター プロセスエラー



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

ACK / NAK キャラクター設定

ACK / NAK 文字として使用する ASCII キャラクターまたは 16 進値を指定することができます。ASCII キャラクターまたは任意の 16 進数値を選択できます。デフォルト ACK 文字 = <ACK> (HEX:06); デフォルトの NAK 文字 = <NAK> (16 進数:15)。



@ANPACK

ACK キャラクター設定



@ANPNAK

NAK キャラクター設定

例:ACK 文字を 0x11 に設定する

1. 「Enter Setup」バーコードをスキャンします。
2. 「ACK キャラクター設定」バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数値バーコード」の「1」と「1」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
5. 「Exit Setup」バーコードをスキャンします。

ACK / NAK 送信エラービープ音

スキャナがバーコード送信後にホストからの NAK 応答を受信したときに、ビープ音 (200Hz、400ms 持続) の有効/無効を指定します。



@ANPITF1

有効 ACK/NAK 送信エラービープ音



@ANPITF0

**無効 ACK/NAK 送信エラービープ音



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

ACK / NAK リトライ回数設定

このパラメータは、スキャナがホストからの ACK または NAK 応答を待っているときにスキャナがバーコード送信を再試行する回数を指定します。指定範囲は 1～254 回です。0 を選択するとカウントが無効になります。255 を選択すると無制限の再試行を意味します。デフォルト値は 3(再試行)です。



ACK / NAK リトライ回数設定

例:ACK / NAK リトライ回数を 200 に設定する

- 1.「Enter Setup」バーコードをスキャンします。
- 2.「ACK / NAK リトライ回数設定」バーコードをスキャンします。
- 3.付録の「数値バーコード」の「2」、「0」、「0」をスキャンします。
- 4.付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。。
- 5.「Exit Setup」バーコードをスキャンします。

ACK / NAK タイムアウト設定

このパラメータは、スキャナがバーコード送信後にホストから ACK キャラクターを待つ時間を指定します。0 を選択するとタイムアウトが無効になります。

ACK / NAK タイムアウト:0～75ms、0ms、200ms(デフォルト)、...、15,000ms、200ms 刻み



ACK / NAK タイムアウト設定

例:ACK / NAK タイムアウトを 400ms に設定する

- 1.「Enter Setup」バーコードをスキャンします。
- 2.「ACK / NAK タイムアウト設定」バーコードをスキャンします。



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

3. 付録の「数値バーコード」の「2」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
5. 「Exit Setup」バーコードをスキャンします。

有効/無効 キャラクター設定

RS-232 ホストコマンド値の有効または無効を指定できます。ASCII キャラクターまたは任意の 16 進数値を選択できます。デフォルト有効文字= "E" (HEX:45); デフォルト文字を無効にする= "D" (HEX:44)。



@ANPECH

有効 キャラクター設定



@ANPDCH

無効 キャラクター設定

例: 有効キャラクターを "K" (0x4B) に設定する

1. 「Enter Setup」バーコードをスキャンします。
2. 有効 キャラクター設定」バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数値バーコード」の「4」と「B」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
5. 「Exit Setup」バーコードをスキャンします。



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

第三章 クエリコマンド

下のバーコードの 1 つをスキャンして、スキャナの情報を調べることができます。結果はホストに送られます。



@QRYFWV
ファームウェア バージョン



@QRYDCV
デコーダ バージョン



@QRYHWW
ハードウェア バージョン



@QRYDAT
製造年月日



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

第四章 通信設定

スキャナは、ホストと通信するために RS-232 インターフェイスと USB インターフェイスを提供します。ホストは、データを受信し、スキャナを制御するためのコマンドを送信したり、又はインターフェイスを介してスキャナの設定情報を変更することができます。

RS-232 インターフェイス

スキャナがホストの RS-232 ポートに接続されると、スキャナは RS-232 通信を自動的に有効にします。ただし、スキャナに通信パラメータ(ボーレート、パリティチェック、データビット、ストップビットを含む)を設定して、2 つの機器が通信できるようにホスト機器を合わせる必要があります。



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

ボーレート

ボーレートは1秒間に送信されるデータのビット数です。ホスト要件に合わせてボーレートを設定します。



@232BAD3

**** 9600**



@232BAD0

1200



@232BAD1

2400



@232BAD2

4800



@232BAD4

14400



@232BAD5

19200



@232BAD6

38400



@232BAD7

57600



@232BAD8

115200



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

パリティ チェック



@232PAR0

**なし



@232PAR1

偶数パリティ



@232PAR2

奇数パリティ

ストップビット



@232STP0

** 1 ストップビット



@232STP1

2 ストップビット

データビット

データビット数を 7 に設定すると、偶数パリティまたは奇数パリティのみ選択できます。



@232DAT0

** 8 データビット



@232DAT1

7 データビット

フロー制御

CTS フロー制御が有効の場合、スキャナは CTS 信号レベルに基づいてデータを送信するかどうかを決定します。CTS 信号がハイレベルになると、受信デバイス(PC など)のシリアルポートの



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

キャッシュメモリが一杯になったことを意味し、スキャナは、受信デバイスによって CTS 信号がローレベルに設定されるまで、シリアルポートを介してデータの送信を停止し、受信デバイスが未受信の場合は 100ms 後にデータを破棄します。CTS フロー制御または RTS_CTS フロー制御 1 の場合、スキャナがデータを送信または破棄した後にスキャンが再開されることがあります。RTS_CTS フロー制御 2 の場合、スキャナがデータを送信または破棄した後、CTS 信号がローレベルのときにのみスキャンが再開されます。RTS フロー制御が有効な場合、スキャナがデータを受信するかどうかは RTS 信号レベルに依存します。スキャナが受信準備ができていない場合は、RTS 信号をハイレベルに設定します。送信先のデバイス (PC など) がデータを検出すると、スキャナにデータを送信しなくなり、データの損失を防止します。

「フロー制御なし」を選択すると、シリアルデータの送受信は RTS / CTS 信号の影響を受けません。



**無効 フロー制御



CTS フロー制御



RTS フロー制御



RTS_CTS フロー制御 1



RTS_CTS フロー制御 2

注:RTS_CTSフロー制御2が選択されているが、使用されているシリアルケーブルに RTS / CTS ピンが含まれていないか、または故障していると、スキャナが応答しなくなります。(バーコードを読み取ることができないか、または通信できない) この問題のトラブルシューティングを行うには、USB ケーブルを使用してスキャナをホストに接続し、他のフロー制御オプションプログラミングバーコードをスキャンします。

USB インターフェイス

USB サスペンド

この機能により、ホストがスリープ状態または休止状態になったときにスキャナが USB インターフェイスをサスペンドして電力を節約できます。サスペンドされたデバイスを起動するには、USB



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

ケーブルを外してから接続するか、ホストを起動してください。



@USPENAO

** 無効 USB サスペンド

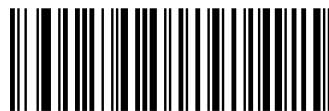


@KBWCTY6

有効 USB サスペンド

USB HID-KBW

スキャナがホストの USB ポートに接続されている場合は、下のバーコードをスキャンして USB HID-KBW 機能を有効にすることができます。スキャナの送信は、USB キーボード入力としてシミュレートされます。ホストは、仮想キーボードのキーストロークを受信します。これはプラグアンドプレイで動作し、ドライバは必要ありません。



@INTERF3

** USB HID-KBW



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

キーボード・レイアウト



1 – US (English)



7 – Finland (Swedish)



2 – Belgium (French)



8 - France



3 – Brazil (Portuguese)



9 – German (Austria)



4 – Canada (French)



10 – Greece (Greek)



5 - Czechoslovakia (Czech)



11 – Hungary (Hungarian)



6 - Danmark



12 – Israel (Hebrew)



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup



@KBWCTY12

13 - Italy



@KBWCTY19

19 - Russia



@KBWCTY14

14 – Netherlands (Dutch)



@KBWCTY22

20 – Spain (Spanish_International Sort)



@KBWCTY15

15 – Norwegian (Norway)



@KBWCTY23

21 – Swedish (Sweden)



@KBWCTY16

16 – Polish (Poland)



@KBWCTY24

22 – German (Switzerland)



@KBWCTY17

17 – Portuguese (Portugal)



@KBWCTY25

23 - Turkey_F



@KBWCTY18

18 - Romania



@KBWCTY26

24 – Turkey_Q



@KBWCTY27

25 - UK



@KBWCTY28

**** 26 - Japan**

インターキーストローク間の遅延

このパラメータは、エミュレートされたキーストローク間の遅延を指定します。 0ms～75ms まで



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

5ms 刻みでプログラム可能です。



@KBWDLY
カスタム 遅延



@KBWDLY0
**遅延なし



@KBWDLY20
遅延 短 (20ms)



@KBWDLY40
遅延 長 (40ms)

例: インターキーストロークの遅延を 5ms に設定する

1. 「Enter Setup」バーコードをスキャンします。
2. 「カスタム遅延」バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数値バーコード」の「5」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
5. 「Exit Setup」バーコードをスキャンします。

コンバートケース

下の該当するバーコードをスキャンして、バーコードデータを目的のケースに変換します。



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup



@KBWCAS0

**ケースコンバート無し



@KBWCAS2

すべて小文字に変換



@KBWCAS1

すべて大文字に変換

エミュレート **Alt +**キーパッド

この機能は、どのキーボードタイプが選択されていても、テンキーパッドで ASCII キャラクター (0x00~0xFF)を送信することができます。キャラクターの送信には複数のキーストロークエミュレーションが必要なため、この方法はあまり効率的ではありません。次のオプションを使用できます。

無効:Alt キー+キーパッドの方法で ASCII キャラクターは送信されません。



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

モード 1: 選択されたキーボードタイプではサポートされていないが 0x20～0xFF に該当する ASCII キャラクターは、ALT + キーパッドの方法で送信されます。

モード 2: 0x20～0xFF に該当する ASCII キャラクターが Alt + Keypad の方法で送信されます。

モード 3: すべての ASCII キャラクター (0x00～0xFF) は ALT + キーパッドの方法で送信されます。

注: ファンクションキーマッピングとモード 3 が矛盾する場合、ファンクションキーマッピングが適用されます。



@KBWALK0

**** 無効**



@KBWALK1

モード 1



@KBWALK2

モード 2



@KBWALK3

モード 3

例: US キーボードを選択すると、バーコードデータ "ADF" (65/208/70) が次のように送信されます。

(1) モード 1 が有効:

"A" - キーストローク "A"

"D" - "ALT Make" + "208" + "ALT Break"

"F" - キーストローク "F"

(2) モード 3 を有効にする:

"A" - "ALT Make" + "065" + "ALT Break"

"D" - "ALT Make" + "208" + "ALT Break"

"F" - "ALT Make" + "070" + "ALT Break"



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

ファンクションキーマッピング

ファンクションキーマッピングを有効にすると、ファンクション文字 (0x00～0x1F) が ASCII シーケンスとしてキーパッドに送信されます。詳細は付録の「ASCII ファンクションキーマッピングテーブル」を参照してください。



@KBWFKM1

有効 ファンクションキーマッピング



@KBWFKM0

** 無効 ファンクションキーマッピング

例: バーコードデータ 0x16 例: バーコードデータ 0x16

 T	有効 ファンクションキーマッピング	Ctrl+V
	無効 ファンクションキーマッピング	F1

テンキーキーパッド エミュレート設定

この機能を無効にすると、バーコードデータはメインキーボードのキーストロークとしてエミュレートされます。数値 (0-9) の送信はテンキーパッドのキーストロークとしてエミュレートされ、“+”, “_”, “*”, “/” “.” のような他の文字を送信すると、メインキーボードのキーストロークとして引き続きエミュレートされます。



@KBWNUM0

** 無効 テンキーキーパッド エミュレート設定



@KBWNUM1

有効 テンキーキーパッド エミュレート設定



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

ポーリングレート

このパラメータは、USB キーボードのポーリングレートを指定します。ホストが文字を読みこぼす場合は、ポーリングレートをより大きな値に変更します。



@KBWPOR0
**** 1ms**



@KBWPOR1
2ms



@KBWPOR2
3ms



@KBWPOR3
4ms



@KBWPOR4
5ms



@KBWPOR5
6ms



@KBWPOR6
7ms



@KBWPOR7
8ms



@KBWPOR8
9ms



@KBWPOR9
10ms



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

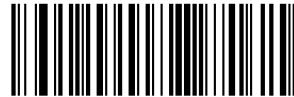
コードページ

コードページのプログラミング機能は、より国際的な文字をサポートするために提供されています。この設定は、ALT + キーパッドの方法で ASCII キャラクターが送信された場合にのみ有効です。



@KBWCPO

**** Code Page 1252 (Latin I)**



@KBWCPG1

Code Page 1251 (Cyrillic)



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

USB COM ポートエミュレーション設定

USB 接続を介してスキャナをホストに接続すると、USB COM ポートエミュレーション機能により、ホストはシリアルポートのようにデータを受信できます。この機能にはドライバが必要です。



@INTERF2

USB COM ポートエミュレーション設定



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

USB HID-POS

イントロダクション

アプリケーションプログラムには、USB HID-POS インターフェイスを推奨します。

1 つの USB レポートで最大 56 文字を送信でき、キーボードエミュレーションより効率的です。

特徴:

☆ HID ベース、ドライバは必要ありません。

☆ キーボードエミュレーションや従来の RS-232 インターフェイスより通信効率が向上します。

注: USB HID-POS には、ドライバは必要ありません。すべての HID インターフェイスは、オペレーティングシステムによって提供される標準ドライバを使用します。



@INTERF5

USB HID-POS

スキャンしたデータを取得する

バーコードをスキャンして読取りした後、スキャナは次の入力レポートを送信します。

	Bit							
Byte	7	6	5	4	3	2	1	0
0	Report ID = 0x02							
1	Length of the barcode							
2-57	Decoded data (1-56)							
58-61	Reserved (1-4)							
62	0x00							
63	-	-	-	-	-	-	-	Decoded Data Continued



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

IBM SurePOS



@INTERF6

IBM SurePOS (Tabletop)



@INTERF7

IBM SurePOS (Handheld)

VID/PID

USB は VID (ベンダ ID) と PID (プロダクト ID) を使用してデバイスを識別し、位置を特定します。
VID は USB Implementers Forum によって割り当てられます。本製品のベンダーID は 1EAB
(Hex) です。各インターフェイスには PID が割り当てられます。

Product	Interface	PID (Hex)	PID (Dec)
BC-NL1100U	USB HID-KBW	0C03	3075
	USB COM Port Emulation	0C06	3078
	USB HID-POS	0C10	3088
	IBM SurePOS (Tabletop)	0C20	3104
	IBM SurePOS (Handheld)	0C21	3105



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

第五章 プリフィックス ・ サフィックス

イントロダクション

実際のアプリケーションでは、バーコードデータが不十分であることがあります。 スキャンするデータにバーコードタイプ、データ取得時間、区切り文字などの追加情報を含めることができます。

注:カスタマイズデータ:<プリフィックス> <データ> <サフィックス> <終端文字>

プリフィックス シーケンス



@PRESEQ0

**** Code ID+カスタム+AIM ID**



@PRESEQ1

カスタム+Code ID+AIM ID

カスタム プリフィックス

有効 / 無効 カスタム プリフィックス

有効 カスタムプリフィックスの場合、スキャンしたデータにユーザー定義のプリフィックスを11キャラクター以内で付加することができます。

例:バーコードデータが「123」で、カスタムプリフィックスが「AB」であれば、ホストは “AB123”を受信します。



@CPRENA0

**** 無効 カスタム プリフィックス**



@CPRENA1

有効 カスタム プリフィックス



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

カスタム プリフィックス設定

カスタムフィックスを設定するには、カスタムプリフィックスのバーコードと希望するプリフィックスの 16 進数値を表す数値バーコードをスキャンし、保存バーコードをスキャンします。付録の「ASCII テーブル」を参照して、16 進値のキャラクターを確認してください。

注: パーソナルプリフィックスは 11 桁以内で設定してください。



カスタム プリフィックス設定

例: カスタムプリフィックスを "CODE" (16 進数: 0x43 / 0x4F / 0x44 / 0x45)

1. 「Enter Setup」バーコードをスキャンします。
2. 「カスタム プリフィックス設定」バーコードを読み取ります。
3. 付属の「数値バーコード」の「4」「3」「4」「F」「4」「4」「4」「5」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
5. 「有効 カスタム プリフィックス」バーコードをスキャンします。
6. 「Exit Setup」バーコードをスキャンします。



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

AIM ID プリフィックス

AIM (Automatic Identification Manufacturers) ID と ISO / IEC 15424 規格は、シンボル識別子とデータキャリア識別子を定義しています。(詳細については付録の「AIM ID テーブル」を参照してください。有効 AIM ID プリフィックスの場合、スキャナは読取り後にスキャンされたデータの前にシンボル識別子を追加します。



@AIDENA0

** 無効 AIM ID プリフィックス



@AIDENA1

有効 AIM ID プリフィックス

Code ID プリフィックス

バーコードタイプを識別するために Code ID を使用することもできます。AIM ID とは異なり、Code ID はユーザーがプログラムできます。Code ID は、1 桁または 2 桁 (0x01~0xFF) のみで設定できます。



@CIDENA0

** 無効 Code ID プリフィックス



@CIDENA1

有効 Code ID プリフィックス

すべての Code ID を初期化する

デフォルトの Code ID の情報については、付録の「Code ID テーブル」を参照してください。



@CIDDEF

すべての Code ID を初期化する



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

Code ID 変更

シンボルの Code ID を変更するには、下の適切な Code ID バーコードと目的の Code ID の 16 進数値を表す数値バーコードをスキャンし、保存バーコードをスキャンします。



@CID002

Code 128 Code ID 変更



@CID003

UCC/EAN-128 Code ID 変更



@CID020

AIM 128 Code ID 変更



@CID004

JAN-8 (EAN-8) Code ID 変更



@CID005

JAN-13 (EAN-13) Code ID 変更



@CID023

ISSN Code ID 変更



@CID024

ISBN Code ID 変更



@CID006

UPC-E Code ID 変更



@CID007

UPC-A Code ID 変更



@CID008

Interleaved 2 of 5 Code ID 変更



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup



@CID010

ITF-6 Code ID 変更



@CID009

ITF-14 Code ID 変更



@CID128

Deutsche 14 Code ID 変更



@CID129

Deutsche 12 Code ID 変更



@CID022

COOP 25 Code ID 変更



@CID011

Matrix 2 of 5 Code ID 変更



@CID025

Industrial 25 Code ID 変更



@CID026

Standard 25 Code ID 変更



@CID013

Code 39 Code ID 変更



@CID015

Codabar Code ID 変更



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup



Code 93 Code ID 変更



Code 11 Code ID 変更



Plessey Code ID 変更



MSI-Plessey Code ID 変更



GS1 Databar Code ID 変更

例: Code 128 Code ID を "p" に設定する (HEX: 0x70)

1. 「Enter Setup」バーコードをスキャンします。
2. 「Code 128 Code ID 変更」バーコードの変更をスキャンします。
3. 付属の「数値バーコード」の「7」と「0」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
5. 「Exit Setup」バーコードをスキャンします。

例: すべての各種バーコードのデフォルト Code ID を復元する

1. 「Enter Setup」バーコードをスキャンします。
2. 「すべての Code ID を初期化する」バーコードをスキャンします。
3. 「Exit Setup」バーコードをスキャンします。



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

カスタム サフィックス

有効 / 無効 カスタム サフィックス

有効 カスタム サフィックスの場合、スキャンしたデータにユーザー定義のサフィックスを 11 桁以内で付加することができます。例えば、バーコードデータが「123」、カスタムサフィックスが「AB」であれば、ホストは「123AB」を受信する。



@CSUENA0

** 無効 カスタム サフィックス



@CSUENA1

有効 カスタム サフィックス

カスタム サフィックス設定

カスタムサフィックスを設定するには、「**カスタム サフィックス設定**」バーコードと目的のプリフィックスの 16 進数値を表す数値バーコードをスキャンし、保存バーコードをスキャンします。付録の「ASCII テーブル」を参照して、文字の 16 進値を確認してください。

注: パーソナルプリフィックスは 11 桁以内で入力してください。



@CSUSET

カスタム サフィックス設定

例: カスタムサフィックスを "AGE" (HEX: 0x41 / 0x47 / 0x45) に設定します。

1. 「Enter Setup」バーコードをスキャンします。
2. 「カスタム サフィックス設定」バーコードをスキャンします。
3. 付属の「数値バーコード」の「4」、「1」、「4」、「7」、「4」、「5」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
5. 「有効 カスタム サフィックス」バーコードをスキャンします。
6. 「Exit Setup」バーコードをスキャンします。



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

終端文字 サフィックス

有効 / 無効 終端文字 サフィックス

終端文字を使用してデータの終わりをマークすることができます。

終端文字サフィックスには、1 文字または 2 文字を含めることができます。



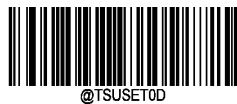
無効 終端文字 サフィックス



** 有効 終端文字 サフィックス

終端文字 サフィックス設定

スキャナは、終端文字サフィックスを CR (0x0D) または CRLF (0x0D、0x0A) に設定し、下の適切なバーコードをスキャンします。



** 終端文字 CR (0x0D)



終端文字 CRLF (0x0D,0x0A)

終端文字サフィックスを設定するには、終端文字サフィックスバーコードと目的の終端文字の 16 進数値を表す数値バーコードをスキャンし、保存バーコードをスキャンします。終端文字の 16 進値については付録の「ASCII テーブル」を参照してください。



Set 終端文字 サフィックス

例: 終端文字を LF に設定する (HEX: 0x0A)

1. 「Enter Setup」バーコードをスキャンします。。
2. 「有効 終端文字 サフィックス」バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数値バーコード」の「0」と「A」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。。
5. 「Exit Setup」バーコードをスキャンします。



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

第六章 各種バーコード

イントロダクション

各種バーコードには独自の属性があります。この章では、さまざまなバーコードを識別できるようにスキャナを設定するためのバーコードのプログラミングについて説明します。まれに使用されるバーコードは、無効にして、スキャナの効率を上げることをお勧めします。

全般設定

有効 / 無効すべての各種バーコード

「無効 すべての各種バーコード」が設定されている場合、スキャナはプログラミングバーコード以外の設定されていないバーコードを読み取ることはできません。



@ALLENA1

有効 All 各種バーコード



@ALLENA0

無効 All 各種バーコード

ビデオリバース

通常バーコード: 明るい背景の暗い画像。

反転バーコード: 暗い背景に明るい画像。

ビデオリバース機能を使用すると、スキャナは反転されたバーコードを読み取ることができます。

有効 ビデオリバース: 通常のバーコードと反転バーコードの両方を読み取ります。

無効 ビデオリバース: 通常のバーコードのみを読み取ります。

ビデオリバース機能が有効の場合、スキャン速度はわずかに低下します。



@ALLINV1

Video Reverse ON



@ALLINV0

** Video Reverse OFF



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

Code 128

Code 128 を工場出荷時設定に戻す



@128DEF

Code 128 を工場出荷時設定に戻す

有効 / 無効 Code 128



@128ENA1

** 有効 Code 128



@128ENA0

無効 Code 128



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

Code 128 の桁数設定

スキャナは、最大と最小の桁数設定をした Code 128 バーコードを読み取りするように設定できます。この設定をするには、最小桁数と最大桁数を設定する必要があります。

最小桁数が最大桁数より大きく設定されている場合、スキャナは Code 128 のバーコードのみを最小または最大桁数で読み取ります。最小の長さが最大の長さと同じである場合、その長さの Code 128 のバーコードのみが読み取られます。



@128MIN

最小桁数 設定



@128MAX

最大桁数 設定

例: 8～12 文字の Code128 バーコードを読み取りるようにスキャナを設定する

1. 「Enter Setup」バーコードをスキャンします。
2. 「最小桁数 設定」バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数値バーコード」の「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
5. 「最大桁数 設定」バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数値バーコード」の「1」と「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
8. 「Exit Setup」バーコードをスキャンします。



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

UCC/EAN-128

UCC/EAN-128 を工場出荷時設定に戻す



@GS1DEF

UCC/EAN-128 を工場出荷時設定に戻す

有効 / 無効 **UCC/EAN-128**



@GS1ENA1

** 有効 **UCC/EAN-128**



@GS1ENA0

無効 **UCC/EAN-128**



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

UCC/EAN-128 の桁数設定

スキャナは、最大と最小の桁数設定をした UCC / EAN-128 バーコードのみを読み取りするように設定できます。この設定をするには、最小桁数と最大桁数を設定する必要があります。

最小桁数が最大桁数よりも長く設定されている場合、スキャナは最小または最大桁数の UCC / EAN-128 バーコードのみを読み取りします。最小桁数が最大桁数と同じ場合、その長さの UCC / EAN-128 バーコードのみが読み取りされます。



@GS1MIN

最小桁数 設定



@GS1MAX

最大桁数 設定

例: 8～12 文字の UCC / EAN-128 バーコードを読み取りするようにスキャナを設定する

1. 「Enter Setup」バーコードをスキャンします。
2. 「最小桁数 設定」バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数値バーコード」の「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
5. 「最大桁数 設定」バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数値バーコード」の「1」と「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
8. 「Exit Setup」バーコードをスキャンします。



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

AIM 128

AIM 128 を工場出荷時設定に戻す



@AIMDEF

AIM 128 を工場出荷時設定に戻す

有効 / 無効 AIM 128



@AIMENA1

有効 AIM 128



@AIMENA0

** 無効 AIM128



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

AIM 128 の桁数設定

スキャナは、最大と最小の桁数設定をした AIM 128 バーコードのみを読み取りするように設定できます。この設定をするには、最小桁数と最大桁数を設定する必要があります。

最小桁数が最大桁数より長く設定されている場合、スキャナは AIM 128 のバーコードのみを最小または最大桁数で読み取りします。最小の長さが最大の長さと同じ場合、その長さの AIM 128 バーコードのみが読み取りされます。



@AIMMIN

最小桁数 設定



@AIMMAX

最大桁数 設定

例: 8～12 文字の AIM 128 バーコードを読み取りするようにスキャナを設定する

1. 「Enter Setup」バーコードをスキャンします。
2. 「最小桁数 設定」バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数値バーコード」の「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
5. 「最大桁数 設定」バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数値バーコード」の「1」と「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
8. 「Exit Setup」バーコードをスキャンします。



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

JAN-8 (EAN-8)

JAN-8 (EAN-8) を工場出荷時設定に戻す



@EA8DEF

JAN-8 (EAN-8) を工場出荷時設定に戻す

有効 / 無効 JAN-8 (EAN-8)



@EA8ENA1

** 有効 JAN-8 (EAN-8)



@EA8ENA0

無効 JAN-8 (EAN-8)

チェックデジットの送信

JAN-8 (EAN-8) の長さは 8 桁で、最後はデータの整合性を確認するためのチェックデジットです。



@EA8CHK2

** 有効 JAN-8 (EAN-8) チェックデジット送信



@EA8CHK1

無効 JAN-8 (EAN-8) チェックデジット送信



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

アドオンコード

JAN-8 (EAN-8) バーコードは、2桁または5桁のアドオンコードで拡張して新しいものを作成することができます。

有効2桁アドオンコード/有効5桁アドオンコード: スキャナは、2桁/5桁のアドオンコードの有無にかかわらず、JAN-8 (EAN-8) バーコードの混在を読み取ります。

2桁のアドオンコードを無効にする/5桁のアドオンコードを無効にする: スキャナは JAN-8 (EAN-8) を読み取り、JAN-8 (EAN-8) プラスのアドオンバーコードが提示されるとアドオンコードを無視します。アドオンコードなしで JAN-8 (EAN-8) バーコードを読み取りすることもできます。



@EA8AD20

**** 無効 2桁アドオンコード**



@EA8AD21

有効 2桁アドオンコード



@EA8AD50

**** 無効 5桁アドオンコード**



@EA8AD51

有効 5桁アドオンコード



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

アドオンコード必須設定

JAN-8 (EAN-8) アドオンコード必須が選択されている場合、スキャナはアドオンコードを含む JAN-8 (EAN-8) バーコードのみを読み取ります。



@EA8REQ1

有効 JAN-8 (EAN-8) アドオンコード必須



@EA8REQ0

** 無効 JAN-8 (EAN-8) アドオンコード

JAN-8 (EAN-8) から JAN-13 (EAN-13) への変換

有効 JAN-8 (EAN-8) から JAN-13 (EAN-13) へ変換: JAN-8 (EAN-8) を JAN-13 (EAN-13) に変換します。変換後、データは JAN-13 (EAN-13) フォーマットに従い、JAN-13 (EAN-13) プログラミング選択 (例えば、チェックデジット) の影響を受けます。

無効 JAN-8 (EAN-8) から JAN-13 (EAN-13) へ変換: JAN-8 (EAN-8) を読取ると変換されず JAN-8 (EAN-8) データとして送信されます。



@EA8EXP0

** 無効 JAN-8 (EAN-8) から
JAN-13 (EAN-13) へ変換



@EA8EXP1

有効 JAN-8 (EAN-8) から
JAN-13 (EAN-13) へ変換



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

JAN-13 (EAN-13)

JAN-13 (EAN-13) を工場出荷時設定に戻す



@E13DEF

JAN-13 (EAN-13) を工場出荷時設定に戻す

有効 / 無効 JAN-13 (EAN-13)



@E13ENA1

** 有効 JAN-13 (EAN-13)



@E13ENA0

無効 JAN-13 (EAN-13)

チェックデジットの送信

JAN-13 (EAN-13) の長さは 13 桁で、最後はデータの整合性を確認するためのチェックデジットです。



@E13CHK2

** 有効 JAN-13 (EAN-13) チェックデジット送信



@E13CHK1

無効 JAN-13 (EAN-13) チェックデジット送信



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

アドオンコード

JAN-13 (EAN-13) バーコードは、2桁または5桁のアドオンコードで拡張して新しいバーコードを作成することができます。

有効 2桁アドオンコード/有効 5桁アドオンコード: スキャナは、JAN-13 (EAN-13) バーコードと2桁 / 5桁のアドオンコードを含めた読取りをします。

無効 2桁アドオンコード/無効 5桁アドオンコード: スキャナは JAN-13 (EAN-13) を読取り、JAN-13 (EAN-13) とアドオンバーコードが添付されている場合はアドオンコードを無視します。また、アドオンコードなしの JAN-13 (EAN-13) バーコードを読取りすることもできます。



** 無効 2桁アドオンコード



有効 2桁アドオンコード



** 無効 5桁アドオンコード



有効 5桁アドオンコード

アドオンコード必須設定

有効 JAN-13 (EAN-13) アドオンコード必須を選択すると、スキャナはアドオンコードを含む JAN-13 (EAN-13) バーコードのみを読み取ります。



有効 JAN-13 (EAN-13) アドオンコード必須



**無効 JAN-13 (EAN-13) アドオンコード必須



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

JAN-13 (EAN-13) 290 で始まるアドオンコード必須設定

この設定では、「290」で始まる JAN-13 (EAN-13) のバーコードにアドオンコード (2 桁または 5 桁) を要求するようにスキャナを設定します。以下の設定をプログラムすることができます。

有効 アドオンコード必須:「290」で始まるすべての JAN-13 (EAN-13) バーコードは、2 桁または 5 桁のアドオンコードが必要になります。読取り後、アドオンコード付きの JAN-13 (EAN-13) バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合は、JAN-13 (EAN-13) バーコードは破棄されます。

無効 アドオンコード必須:「有効 アドオンコード必須」を設定していて、この機能を無効にしたい場合は、「無効 アドオンコード必須」を選択します。JAN-13 (EAN-13) バーコードが処理され、「有効アドオンコード必須」の選択によって異なります。



**無効 アドオンコード必須



有効 アドオンコード必須

JAN-13 (EAN-13) 378/379 で始まるアドオンコード必須設定

この設定では、「378」または「379」で始まる JAN-13 (EAN-13) のバーコードにアドオンコード (2 桁または 5 桁) を要求するようにスキャナを設定します。以下の設定をプログラムすることができます。

有効 アドオンコード必須:「378」または「379」で始まる JAN-13 (EAN-13) バーコードは、2 桁または 5 桁のアドオンコードが必要になります。読取り後、アドオンコード付きの JAN-13 (EAN-13) バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合は、JAN-13 (EAN-13) バーコードは破棄されます。

無効 アドオンコード必須:「有効 アドオンコード必須」を設定していて、この機能を無効にしたい場合は、「無効 アドオンコード必須」を選択します。JAN-13 (EAN-13) バーコードが処理され、「有効アドオンコード必須」の選択によって異なります。



**無効 アドオンコード必須



有効 アドオンコード必須



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

JAN-13 (EAN-13) 414/419 で始まるアドオンコード必須設定

この設定では、「414」または「419」で始まる JAN-13 (EAN-13) のバーコードにアドオンコード (2 桁または 5 桁) を要求するようにスキャナを設定します。以下の設定をプログラムすることができます。

有効 アドオンコード必須:「414」または「419」で始まる JAN-13 (EAN-13) バーコードは、2 桁または 5 桁のアドオンコードが必要になります。読取り後、アドオンコード付きの JAN-13 (EAN-13) バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合は、JAN-13 (EAN-13) バーコードは破棄されます。

無効 アドオンコード必須:「有効 アドオンコード必須」を設定していて、この機能を無効にしたい場合は、「無効 アドオンコード必須」を選択します。JAN-13 (EAN-13) バーコードが処理され、「有効アドオンコード必須」の選択によって異なります。



**無効 アドオンコード必須



有効 アドオンコード必須

JAN-13 (EAN-13) 434/439 で始まるアドオンコード必須設定

この設定では、「434」または「439」で始まる JAN-13 (EAN-13) のバーコードにアドオンコード (2 桁または 5 桁) を要求するようにスキャナを設定します。以下の設定をプログラムすることができます。

有効 アドオンコード必須:「434」または「439」で始まる JAN-13 (EAN-13) バーコードは、2 桁または 5 桁のアドオンコードが必要になります。読取り後、アドオンコード付きの JAN-13 (EAN-13) バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合は、JAN-13 (EAN-13) バーコードは破棄されます。

無効 アドオンコード必須:「有効 アドオンコード必須」を設定していて、この機能を無効にしたい場合は、「無効 アドオンコード必須」を選択します。JAN-13 (EAN-13) バーコードが処理され、「有効アドオンコード必須」の選択によって異なります。



**無効 アドオンコード必須



有効 アドオンコード必須



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

JAN-13 (EAN-13) 977 で始まるアドオンコード必須設定

この設定では、「977」で始まる JAN-13 (EAN-13) のバーコードにアドオンコード (2 桁または 5 桁) を要求するようにスキャナを設定します。以下の設定をプログラムすることができます。

有効 アドオンコード必須:「977」で始まる JAN-13 (EAN-13) バーコードは、2 桁または 5 桁のアドオンコードが必要になります。読取り後、アドオンコード付きの JAN-13 (EAN-13) バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合は、JAN-13 (EAN-13) バーコードは破棄されます。

無効 アドオンコード必須:「有効 アドオンコード必須」を設定していて、この機能を無効にしたい場合は、「無効 アドオンコード必須」を選択します。JAN-13 (EAN-13) バーコードが処理され、「有効アドオンコード必須」の選択によって異なります。



@E139770

****無効 アドオンコード必須**



@E139771

有効 アドオンコード必須

JAN-13 (EAN-13) 978 で始まるアドオンコード必須設定

この設定では、「978」で始まる JAN-13 (EAN-13) のバーコードにアドオンコード (2 桁または 5 桁) を要求するようにスキャナを設定します。以下の設定をプログラムすることができます。

有効 アドオンコード必須:「978」で始まる JAN-13 (EAN-13) バーコードは、2 桁または 5 桁のアドオンコードが必要になります。読取り後、アドオンコード付きの JAN-13 (EAN-13) バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合は、JAN-13 (EAN-13) バーコードは破棄されます。

無効 アドオンコード必須:「有効 アドオンコード必須」を設定していて、この機能を無効にしたい場合は、「無効 アドオンコード必須」を選択します。JAN-13 (EAN-13) バーコードが処理され、「有効アドオンコード必須」の選択によって異なります。



@E139780

****無効 アドオンコード必須**



@E139781

有効 アドオンコード必須



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

JAN-13 (EAN-13) 979 で始まるアドオンコード必須設定

この設定では、「979」で始まる JAN-13 (EAN-13) のバーコードにアドオンコード (2 桁または 5 桁) を要求するようにスキャナを設定します。以下の設定をプログラムすることができます。

有効 アドオンコード必須:「979」で始まる JAN-13 (EAN-13) バーコードは、2 桁または 5 桁のアドオンコードが必要になります。読取り後、アドオンコード付きの JAN-13 (EAN-13) バーコードが送信されます。必要なアドオンコードが見つからない場合は、JAN-13 (EAN-13) バーコードは破棄されます。

無効 アドオンコード必須:「有効 アドオンコード必須」を設定していて、この機能を無効にしたい場合は、「無効 アドオンコード必須」を選択します。JAN-13 (EAN-13) バーコードが処理され、「有効アドオンコード必須」の選択によって異なります。



**無効 アドオンコード必須



有効 アドオンコード必須



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

ISSN

ISSN を工場出荷時設定に戻す



@ISSDEF

ISSN を工場出荷時設定に戻す

有効 / 無効 ISSN



@ISSENA1

有効 ISSN



@ISSENA0

** 無効 ISSN



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

ISBN

ISBN を工場出荷時設定に戻す



@ISBDEF

ISBN を工場出荷時設定に戻す

有効 / 無効 ISBN



@ISBENA1

有効 ISBN



@ISBENA0

** 無効 ISBN

ISBN フォーマット設定



@ISBT100

** ISBN-13



@ISBT101

ISBN-10



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

UPC-E

UPC-E を工場出荷時設定に戻す



@UPEDEF

UPC-E を工場出荷時設定に戻す

有効 / 無効 UPC-E0

この設定では、0 ナンバーシステムを使用する UPC-E バーコードを読み取るようスキャナを有効または無効にします。



@UPEENA1

** 有効 UPC-E0



@UPEENA0

無効 UPC-E0

有効 / 無効 UPC-E1

この設定では、0 ナンバーシステムを使用する UPC-E バーコードを読み取るようスキャナを有効または無効にします。



@UPEEN11

有効 UPC-E1



@UPEEN10

** 無効 UPC-E1



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

チェックデジットの送信

UPC-E の長さは 8 桁で、最後はデータの整合性を確認するためのチェックデジットです。



@UPECHK2

** 有効 UPC-E チェックデジット送信



@UPECHK1

無効 UPC-E チェックデジット送信

アドオンコード

UPC-E バーコードは、2 桁または 5 桁のアドオンコードで拡張して新しいバーコードを作成することができます。

有効 2 桁アドオンコード/有効 5 桁アドオンコード: スキャナは、UPC-E バーコードと 2 桁/ 5 桁のアドオンコードを含めた読取りをします。

無効 2 桁アドオンコード/無効 5 桁アドオンコード: スキャナは UPC-E を読取り、UPC-E とアドオンバーコードが添付されている場合はアドオンコードを無視します。また、アドオンコードなしの UPC-E バーコードを読取りすることもできます。



@UPEAD20

** 無効 2 桁アドオンコード



@UPEAD21

有効 2 桁アドオンコード



@UPEAD50

** 無効 5 桁アドオンコード



@UPEAD51

有効 5 桁アドオンコード



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

アドオンコード必須設定

UPC-E アドオン必要設定を選択すると、スキャナーはアドオンコードを含む UPC-E バーコードのみを読み取ります。



@UPEREQ1

有効 **UPC-E** アドオンコード必須



@UPEREQ0

**** 無効** **UPC-E** アドオンコード必須

プリアンブルキャラクターの送信

プリアンブルキャラクター(国コードとシステムキャラクター)は、UPC-E バーコードの一部として送信することができます。UPC-E プリアンブルをホストに送信するには、システムキャラクターのみ送信、システムキャラクターおよび国コード送信(米国の場合は「0」)、プリアンブルを送信しない場合のいずれかを選択します。



@UPEPRE0

****プリアンブルなし**



@UPEPRE1

システムキャラクター



@UPEPRE2

システムキャラクターと国コード



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

UPC-E を UPC-A へ変換する

無効 UPC-E を UPC-A へ変換: UPC-E で復号されたデータは、UPC-E データとして変換せずに送信されます。

有効 UPC-E を UPC-A へ変換: UPC-E を UPC-A へに変換します。変換後、データは UPC-A フォーマットに従い、UPC-A プログラミング選択 (プリアンプル、チェックデジットなど) の影響を受けます。

無効 UPC-E を UPC-A へ変換: UPC-E を読取ると変換されず UPC-E データとして送信されます。



@UPEEXP0

** 無効 UPC-E を UPC-A へ変換



@UPEEXP1

有効 UPC-E を UPC-A へ変換



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

UPC-A

UPC-A を工場出荷時設定に戻す



@UPADEF

UPC-A を工場出荷時設定に戻す

有効 / 無効 **UPC-A**



@UPAENA1

** 有効 **UPC-A**



@UPAENA0

無効 **UPC-A**

チェックデジットの送信

UPC-A の長さは 13 桁で、最後はデータの整合性を確認するためのチェックデジットです。



@UPACHK2

** 有効 **UPC-A** チェックデジット送信



@UPACHK1

無効 **UPC-A** チェックデジット送信



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

アドオンコード

UPC-A バーコードは、2 桁または 5 桁のアドオンコードで拡張して新しいバーコードを作成することができます。

有効 2 桁アドオンコード/有効 5 桁アドオンコード: スキャナは、UPC-A バーコードと 2 桁/ 5 桁のアドオンコードを含めた読取りをします。

無効 2 桁アドオンコード/無効 5 桁アドオンコード: スキャナは UPC-A を読取り、UPC-A とアドオンバーコードが添付されている場合はアドオンコードを無視します。 また、アドオンコードなしの UPC-A バーコードを読取りすることもできます。



** 無効 2 桁アドオンコード



有効 2 桁アドオンコード



** 無効 5 桁アドオンコード



有効 5 桁アドオンコード

アドオンコード必須設定

UPC-A アドオン必要設定を選択すると、スキャナはアドオンコードを含む UPC-A バーコードのみを読み取ります。



有効 UPC-A アドオンコード必須



** 無効 UPC-A アドオンコード必須



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

プリアンブルキャラクターの送信

プリアンブルキャラクター（国コードとシステムキャラクター）は、UPC-A バーコードの一部として送信することができます。UPC-A プリアンブルをホストに送信するには、システムキャラクターのみ送信、システムキャラクターおよび国コード送信（米国の場合は「0」）、プリアンブルを送信しない場合のいずれかを選択します。



@UPAPRE0

プリアンブルなし



@UPAPRE1

** システムキャラクター



@UPAPRE2

システムキャラクターと国コード

注: シリアルナンバーで下記以降の物は工場初期状態がシステムキャラクターと国コードになっております。

N1W00601～

N1B00511～



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

Interleaved 2 of 5

Interleaved 2 of 5 を工場出荷時設定に戻す



@I25DEF

Interleaved 2 of 5 を工場出荷時設定に戻す

有効 / 無効 Interleaved 2 of 5



@I25ENA1

** 有効 Interleaved 2 of 5



@I25ENA0

無効 Interleaved 2 of 5



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

チェックデジット確認設定

チェックデジットは Interleaved 2 of 5 ではオプションで、最後の文字として追加できます。これは、データの整合性を検証するために使用される計算値です。

無効: スキャナは、Interleaved 2 of 5 バーコードをそのまま送信します。

無効 チェックデジット確認後 送信する: スキャナは、Interleaved 2 of 5 バーコードの整合性をチェックして、データがチェックデジットアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは、最後の桁を除いて送信されます、失敗したものは送信されません。

有効 チェックデジット確認後 送信する: スキャナは、Interleaved 2 of 5 バーコードの整合性をチェックして、データがチェックデジットアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは、最後の桁も含め送信されます、失敗したものは送信されません。



@I25CHK0

無効



@I25CHK1

**無効 チェックデジット確認後 送信する



@I25CHK2

有効 チェックデジット確認後 送信する

注: ※シリアルナンバーで下記以降の物は工場初期状態が無効になっております。

N1W00601～

N1B00511～

Interleaved 2 of 5 の桁数設定

スキャナは、最大と最小の桁数設定をした Interleaved 2 of 5 バーコードを読取りするように設定でき



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

ます。この設定をするには、最小桁数と最大桁数を設定する必要があります。

最小桁数が最大桁数より大きく設定されている場合、スキャナは Interleaved 2 of 5 のバーコードのみを最小または最大桁数で読取りします。最小の長さが最大の長さと同じである場合、その長さの Interleaved 2 of 5 のバーコードのみが読取りされます。



最小桁数 設定



最大桁数 設定

例:8～12 文字の Interleaved 2 of 5 バーコードを読取りるようにスキャナを設定する

- 1.「Enter Setup」バーコードをスキャンします。
- 2.「最小桁数 設定」バーコードをスキャンします。
- 3.付録の「数値バーコード」の「8」をスキャンします。
- 4.付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
- 5.「最大桁数 設定」バーコードをスキャンします。
- 6.付録の「数値バーコード」の「1」と「2」をスキャンします。
- 7.付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
- 8.「Exit Setup」バーコードをスキャンします。



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

Febraban

有効 / 無効 Febraban



@I25FBB0

無効 Febraban



@I25FBB1

有効 Febraban, 拡張なし



@I25FBB2

** 有効 Febraban, 拡張

送信遅延の設定

この機能は、USB HID-KBW が有効な場合にのみ使用できます。1 キャラクタあたりの送信遅延の設定は、「拡張」と「拡張なし」の両方に適用されますが、「12 桁あたりの送信遅延」については「Febraban 拡張」にのみ適用されます。



@FEBSEN0

** 無効 1 桁あたりの送信遅延



@FEBSEN1

有効 1 桁あたりの送信遅延



@FEBMEN0

** 無効 12 桁あたりの送信遅延



@FEBMEN1

有効 12 桁あたりの送信遅延



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

カスタム 1 桁あたりの送信遅延:このパラメータは、0ms から 75ms まで 5ms 刻みで設定可能です。設定には、「カスタム 1 桁あたりの送信遅延」をスキャンし、希望の数字のバーコードと保存バーコードをスキャンします。デフォルト値は 70ms です。

カスタム 12 文字あたりの送信遅延:このパラメータを設定するには、「カスタム 12 文字あたりの送信遅延」と数値バーコードをスキャンします。（数値バーコード:0=0ms、1=300ms、2=400ms、3=500ms、4=600ms、5=700ms、6=800ms、7=900ms を表します。） デフォルト値は 500ms です。



カスタム 1 桁あたりの送信遅延



カスタム 12 桁あたりの送信遅延

例:1 文字あたりの送信遅延を 5ms に設定する

- 1.「Enter Setup」バーコードをスキャンします。
- 2.「カスタム 1 桁あたりの送信遅延」バーコードをスキャンします。
- 3.付録の「数値バーコード」の「5」をスキャンします。
- 4.付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
- 5.「有効 1 桁あたりの送信遅延」をスキャンします。
- 6.「Exit Setup」バーコードをスキャンします。

例:12 文字あたりの送信遅延を 600ms に設定する

- 1.「Enter Setup」バーコードをスキャンします。
- 2.「カスタム 12 桁あたりの送信遅延」バーコードをスキャンします。
- 3.付録の「数値バーコード」の「4」をスキャンします。
- 4.付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
- 5.「有効 12 桁あたりの送信遅延」をスキャンします。
- 6.「Exit Setup」バーコードをスキャンします。



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

ITF-6

ITF-6 は、6 桁のデータで最後の桁が「チェックデジット」になっている特殊な Interleaved 2 of 5 です。

ITF-6 優先順位:「Interleaved 2 of 5」が 6 桁で最後の桁がチェックデジットである場合、「ITF-6」の設定が「Interleaved 2 of 5」の設定より優先されます。



@IT6DEF

ITF-6 を工場出荷時設定に戻す



@IT6ENA0

** 無効 ITF-6



@IT6ENA1

有効 ITF-6 チェックデジット送信しない



@IT6ENA2

有効 ITF-6 チェックデジット送信する

注: ITF-6 優先順位の例:「ITF-6」が有効で「Interleaved 2 of 5」が無効の場合、スキャナは「Interleaved 2 of 5」を 6 桁の長さで読取りし、最後の桁はチェックデジットとして認識します。



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

ITF-14

ITF-14 は、14 桁のデータで最後の桁が「チェックデジット」になっている特殊な Interleaved 2 of 5 です。

ITF-14 優先順位:「Interleaved 2 of 5」が 14 桁で最後の桁がチェックデジットである場合、「ITF-14」の設定が「Interleaved 2 of 5」の設定より優先されます。



@I14DEF

ITF-14 を工場出荷時設定に戻す



@I14ENA1

有効 ITF-14 チェックデジット送信しない



@I14ENA0

** 無効 ITF-14



@I14ENA2

有効 ITF-14 チェックデジット送信する

注: ITF-14 優先順位の例:「ITF-14」が有効で「Interleaved 2 of 5」が無効の場合、スキャナは「Interleaved 2 of 5」を 14 桁の長さで読取りし、最後の桁はチェックデジットとして認識します。

「ITF-14」の設定が「Deutsche14」の設定と矛盾する場合は、「ITF-14」の設定が優先されます。



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

Deutsche 14

Deutsche 14 を工場出荷時設定に戻す



@D14DEF

Deutsche 14 を工場出荷時設定に戻す

有効 / 無効 **eutsche 14**



@D14ENA1

有効 Deutsche 14 チェックデジット送信しない



@D14ENA0

** 無効 Deutsche 14



@D14ENA2

有効 Deutsche 14 チェックデジット送信する

注意: 「Deutsche 14」と「ITF-14」と「Interleaved 2 of 5」は同じエンコーディング方法を使用しているため、同時に有効にすると読取りに混乱を招きやすくなります。必要な場合を除いて Deutsche 14 を有効にしないことをお勧めします。



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

Deutsche 12

Deutsche 12 を工場出荷時設定に戻す



@D12DEF

Deutsche 12 を工場出荷時設定に戻す

有効 / 無効 Deutsche 12



@D12ENA1

有効 Deutsche 12 チェックデジット送信しない



@D12ENA0

** 無効 Deutsche 12



@D12ENA2

有効 Deutsche 12 チェックデジット送信する

注意: 「Deutsche 12」と「Interleaved 2 of 5」は同じエンコーディング方法を使用しているため、同時に有効にすると読取りに混乱を招きやすくなります。必要な場合を除いて Deutsche 12 を有効にしないことをお勧めします。



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

COOP 25 (Japanese Matrix 2 of 5)

COOP 25 (Japanese Matrix 2 of 5)を工場出荷時設定に戻す



@COPDEF

COOP 25 を工場出荷時設定に戻す

有効 / 無効 COOP 25



@COPENA1

有効 COOP 25



@COPENA0

** 無効 COOP 25

注: スキャナが COOP 25 バーコードを識別できない場合は、「Enter Setup」バーコードをスキャンしてから、「有効 COOP 25」バーコードをスキャンしてください。



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

チェックデジットの確認設定

チェックデジットは COOP 25 ではオプションで、最後の文字として追加できます。これは、データの整合性を検証するために使用される計算値です。

無効: スキャナは、COOP 25 バーコードをそのまま送信します。

無効 チェックデジット確認後 送信する: スキャナは、COOP 25 バーコードの整合性をチェックして、データがチェックデジットアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは、最後の桁を除いて送信されます、失敗したものは送信されません。

有効 チェックデジット確認後 送信する: スキャナは、COOP 25 バーコードの整合性をチェックして、データがチェックデジットアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは、最後の桁も含め送信されます、失敗したものは送信されません。



@COPCHK0

** 無効



@COPCHK2

有効 チェックデジット送信確認



@COPCHK1

無効 チェックデジット送信確認

注: 「無効 チェックデジット確認後送信」を設定した場合、チェックデジットを除外した後、設定された最小桁数よりも短い長さの COOP 25 のバーコードの読取りはされません。

(例: 「無効 チェックデジット確認後 送信する」が有効で、「最小桁数設定」が「4」に設定されている場合、チェックデジットを含む全長 4 文字の「COOP 25」のバーコードは読み取れません。)



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

COOP 25 の桁数設定

スキャナは、最大と最小の桁数設定をした COOP 25 バーコードを読み取りするように設定できます。この設定をするには、最小桁数と最大桁数を設定する必要があります。最小桁数が最大桁数より大きく設定されている場合、スキャナは COOP 25 のバーコードのみを最小または最大桁数で読み取ります。最小の長さが最大の長さと同じである場合、その長さの COOP 25 のバーコードのみが読み取られます。



@COPMIN

最小桁数 設定



@COPMAX

最大桁数 設定

例: 8～12 文字の COOP 25 バーコードを読み取りるようにスキャナを設定する

1. 「Enter Setup」バーコードをスキャンします。
2. 「最小桁数 設定」バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数値バーコード」の「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
5. 「最大桁数 設定」バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数値バーコード」の「1」と「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
8. 「Exit Setup」バーコードをスキャンします。



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

Matrix 2 of 5 (European Matrix 2 of 5)

Matrix 2 of 5 (European Matrix 2 of 5)を工場出荷時設定に戻す



@M25DEF

Matrix 2 of 5 を工場出荷時設定に戻す

有効 / 無効 **Matrix 2 of 5**



@M25ENA1

** 有効 **Matrix 2 of 5**



@M25ENA0

無効 **Matrix 2 of 5**

注: スキャナが Matrix 2 of 5 バーコードを識別できない場合は、「Enter Setup」バーコードをスキャンしてから、「有効 Matrix 2 of 5」バーコードをスキャンしてください。



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

チェックデジットの確認設定

チェックデジットは Matrix 2 of 5 ではオプションで、最後の文字として追加できます。これは、データの整合性を検証するために使用される計算値です。

無効: スキャナは、Matrix 2 of 5 バーコードをそのまま送信します。

無効 チェックデジット確認後 送信する: スキャナは、Matrix 2 of 5 バーコードの整合性をチェックして、データがチェックデジットアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは、最後の桁を除いて送信されます、失敗したものは送信されません。

有効 チェックデジット確認後 送信する: スキャナは、Matrix 2 of 5 バーコードの整合性をチェックして、データがチェックデジットアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは、最後の桁も含め送信されます、失敗したものは送信されません。



@M25CHK0

** 無効



@M25CHK2

有効 チェックデジット送信確認



@M25CHK1

無効 チェックデジット送信確認

注意: 「無効 チェックデジット送信確認」オプションが有効の場合、チェックデジットを除外した後に設定された最小桁数よりも短い長さの Matrix 2 of 5 のバーコードは読取りされません。（例えば、無効チェックデジット送信確認オプションが有効で、最小桁数が 4 に設定されている場合、チェックデジットを含めた全長 4 文字の Matrix 2 of 5 バーコードを読み取ることはできません）



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

Matrix 2 of 5 の桁数設定

スキャナは、最大と最小の桁数設定をした Matrix 2 of 5 バーコードを読み取りするように設定できます。この設定をするには、最小桁数と最大桁数を設定する必要があります。

最小桁数が最大桁数より大きく設定されている場合、スキャナは Matrix 2 of 5 のバーコードのみを最小または最大桁数で読み取ります。最小の長さが最大の長さと同じである場合、その長さの Matrix 2 of 5 のバーコードのみが読み取られます。



@M25MIN

最小桁数 設定



@M25MAX

最大桁数 設定

例: 8～12 文字の Matrix 2 of 5 バーコードを読み取りするようにスキャナを設定する

1. 「Enter Setup」バーコードをスキャンします。
2. 「最小桁数 設定」バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数値バーコード」の「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
5. 「最大桁数 設定」バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数値バーコード」の「1」と「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
8. 「Exit Setup」バーコードをスキャンします。



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

Industrial 25

Industrial 25 を工場出荷時設定に戻す



@L25DEF

Industrial 25 を工場出荷時設定に戻す

有効 / 無効 **Industrial 25**



@L25ENA1

** 有効 **Industrial 25**



@L25ENA0

無効 **Industrial 25**

注: スキャナが Industrial 25 バーコードを識別できない場合は、「Enter Setup」バーコードをスキャンしてから、「有効 Industrial 25」バーコードをスキャンしてください。



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

チェックデジットの確認設定

チェックデジットは Industrial 25 ではオプションで、最後の文字として追加できます。これは、データの整合性を検証するために使用される計算値です。

無効: スキャナは、Industrial 25 バーコードをそのまま送信します。

無効 チェックデジット確認後 送信する: スキャナは、Industrial 25 バーコードの整合性をチェックして、データがチェックデジットアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは、最後の桁を除いて送信されます、失敗したものは送信されません。

有効 チェックデジット確認後 送信する: スキャナは、Industrial 25 バーコードの整合性をチェックして、データがチェックデジットアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは、最後の桁も含め送信されます、失敗したものは送信されません。



@L25CHK0

** 無効



@L25CHK2

有効 チェックデジット送信確認



@L25CHK1

無効 チェックデジット送信確認

注意: 「無効 チェックデジット送信確認」オプションが有効の場合、チェックデジットを除外した後に設定された最小桁数よりも短い長さの Industrial 25 のバーコードは読取りされません。（例えば、無効チェックデジット送信確認オプションが有効で、最小桁数が 4 に設定されている場合、チェックデジットを含めた全長 4 文字の Industrial 25 バーコードを読み取ることはできません）



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

Industrial 25 の桁数設定

スキャナは、最大と最小の桁数設定をした Industrial 25 バーコードを読み取りするように設定できます。この設定をするには、最小桁数と最大桁数を設定する必要があります。

最小桁数が最大桁数より大きく設定されている場合、スキャナは Industrial 25 のバーコードのみを最小または最大桁数で読み取ります。最小の長さが最大の長さと同じである場合、その長さの Industrial 25 のバーコードのみが読み取られます。



@L25MIN

最小桁数 設定



@L25MAX

最大桁数 設定

例: 8～12 文字の Industrial 25 バーコードを読み取りするようにスキャナを設定する

1. 「Enter Setup」バーコードをスキャンします。
2. 「最小桁数 設定」バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数値バーコード」の「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
5. 「最大桁数 設定」バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数値バーコード」の「1」と「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
8. 「Exit Setup」バーコードをスキャンします。



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

Standard 25

Standard 25 を工場出荷時設定に戻す



@S25DEF

Standard 25 を工場出荷時設定に戻す

有効 / 無効 **Standard 25**



@S25ENA1

** 有効 **Standard 25**



@S25ENA0

無効 **Standard 25**

注: スキャナが Standard 25 バーコードを識別できない場合は、「Enter Setup」バーコードをスキャンしてから、「有効 Standard 25」バーコードをスキャンしてください。



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

チェックデジットの確認設定

チェックデジットは Standard 25 ではオプションで、最後の文字として追加できます。これは、データの整合性を検証するために使用される計算値です。

無効: スキャナは、Standard 25 バーコードをそのまま送信します。

無効 チェックデジット確認後 送信する: スキャナは、Standard 25 バーコードの整合性をチェックして、データがチェックデジットアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは、最後の桁を除いて送信されます、失敗したものは送信されません。

有効 チェックデジット確認後 送信する: スキャナは、Standard 25 バーコードの整合性をチェックして、データがチェックデジットアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは、最後の桁も含め送信されます、失敗したものは送信されません。



@S25CHK0

** 無効



@S25CHK2

有効 チェックデジット送信確認



@S25CHK1

無効 チェックデジット送信確認

注意: 「無効 チェックデジット送信確認」オプションが有効の場合、チェックデジットを除外した後に設定された最小桁数よりも短い長さの Standard 25 のバーコードは読取りされません。（例えば、無効チェックデジット送信確認オプションが有効で、最小桁数が 4 に設定されている場合、チェックデジットを含めた全長 4 文字の Standard 25 バーコードを読み取ることはできません）



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

Standard 25 の桁数設定

スキャナは、最大と最小の桁数設定をした Standard 25 バーコードを読み取りするように設定できます。この設定をするには、最小桁数と最大桁数を設定する必要があります。

最小桁数が最大桁数より大きく設定されている場合、スキャナは Standard 25 のバーコードのみを最小または最大桁数で読み取ります。最小の長さが最大の長さと同じである場合、その長さの Standard 25 のバーコードのみが読み取られます。



最小桁数 設定



最大桁数 設定

例: 8～12 文字の Standard 25 バーコードを読み取りするようにスキャナを設定する

1. 「Enter Setup」バーコードをスキャンします。
2. 「最小桁数 設定」バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数値バーコード」の「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
5. 「最大桁数 設定」バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数値バーコード」の「1」と「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
8. 「Exit Setup」バーコードをスキャンします。



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

Code 39

Code 39 を工場出荷時設定に戻す



@C39DEF

Code 39 を工場出荷時設定に戻す

有効 / 無効 **Code 39**



@C39ENA1

** 有効 **Code 39**



@C39ENA0

無効 **Code 39**

注: スキャナが Code 39 バーコードを識別できない場合は、「Enter Setup」バーコードをスキャンしてから、「有効 Code 39」バーコードをスキャンしてください。



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

チェックデジットの確認設定

チェックデジットは Code 39 ではオプションで、最後の文字として追加できます。これは、データの整合性を検証するために使用される計算値です。

無効: スキャナは、Code 39 バーコードをそのまま送信します。

無効 チェックデジット確認後 送信する: スキャナは、Code 39 バーコードの整合性をチェックして、データがチェックデジットアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは、最後の桁を除いて送信されます、失敗したものは送信されません。

有効 チェックデジット確認後 送信する: スキャナは、Code 39 バーコードの整合性をチェックして、データがチェックデジットアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは、最後の桁も含め送信されます、失敗したものは送信されません。



@C39CHK0

** 無効



@C39CHK2

有効 チェックデジット送信確認



@C39CHK1

無効 チェックデジット送信確認

注意: 「無効 チェックデジット送信確認」オプションが有効の場合、チェックデジットを除外した後に設定された最小桁数よりも短い長さの Code 39 のバーコードは読取りされません。(例えば、無効チェックデジット送信確認オプションが有効で、最小桁数が 4 に設定されている場合、チェックデジットを含めた全長 4 文字の Code 39 バーコードを読み取ることはできません)

スタート / ストップ キャラクターの送信

Code39 は、スタートキャラクターとストップキャラクターの両方にアスタリスク(*)を使用します。下の適切なバーコードをスキャンすることによって、スター/ストップキャラクターを送信するかどうかを選



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

択できます。



@C39TSC1

スタート / ストップ キャラクターの送信



@C39TSC0

**** Do not** スタート / ストップ キャラクターの送信

有効 / 無効 Code 39 Full ASCII

下の適切なバーコードをスキャンすることにより、すべての ASCII キャラクターを識別するようにスキヤナを設定することができます。



@C39ASC0

無効 Code 39 Full ASCII



@C39ASC1

**** 有効 Code 39 Full ASCII**



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

Code 39 の桁数設定

スキャナは、最大と最小の桁数設定をした Code 39 バーコードを読み取りするように設定できます。この設定をするには、最小桁数と最大桁数を設定する必要があります。

最小桁数が最大桁数より大きく設定されている場合、スキャナは Code 39 のバーコードのみを最小または最大桁数で読み取ります。最小の長さが最大の長さと同じである場合、その長さの Code 39 のバーコードのみが読み取られます。



@C39MIN

最小桁数 設定



@C39MAX

最大桁数 設定

例: 8～12 文字の Code 39 バーコードを読み取りるようにスキャナを設定する

1. 「Enter Setup」バーコードをスキャンします。
2. 「最小桁数 設定」バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数値バーコード」の「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
5. 「最大桁数 設定」バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数値バーコード」の「1」と「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
8. 「Exit Setup」バーコードをスキャンします。



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

Code32（イタリアの薬品コード）

Code 32 は、イタリアの製薬業界で使用されている Code 39 の亜種です。以下の適切なバーコードをスキャンして有効または無効にしてください。この設定を有効にするには、Code39 が有効で、Code39 のチェックデジットの確認設定が無効でなければなりません。



@C39E320

** 無効 Code 32



@C39E321

有効 Code 32

Code 32 プリフィックス

以下の該当するバーコードをスキャンして、有効または無効にして、プリフィックスキャラクター「A」をすべての Code 32 バーコードに追加します。このパラメーターが機能するには、Code 32 が有効でなければなりません。



@C39S320

** 無効 Code 32 プリフィックス



@C39S321

有効 Code 32 プリフィックス



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

Code 32 スタート / ストップ キャラクターの送信

この設定をするには、Code 32 が有効でなければなりません。



@C39T321

有効 **Code 32** スタート / ストップ キャラクター



@C39T320

** 無効 **Code 32** スタート / ストップ キャラクター

Code 32 チェックデジットの送信

この設定をするには、Code 32 が有効でなければなりません。



@C39C321

有効 **Code 32** チェックデジット送信



@C39C320

** 無効 **Code 32** チェックデジット送信



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

Codabar(NW7)

Codabar (NW7) を工場出荷時設定に戻す



@CBADEF

Codabar(NW7) を工場出荷時設定に戻す

有効 / 無効 **Codabar (NW7)**



@CBAENA1

** 有効 **Codabar(NW7)**



@CBAENA0

無効 **Codabar(NW7)**

注: スキャナが Codabar(NW7) バーコードを識別できない場合は、「Enter Setup」バーコードをスキャンしてから、「有効 Codabar(NW7)」バーコードをスキャンしてください。



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

Codabar (NW7) のチェックデジット確認設定

チェックデジットは Codabar (NW7) ではオプションで、最後の文字として追加できます。これは、データの整合性を検証するために使用される計算値です。

無効: スキャナは、Codabar (NW7) バーコードをそのまま送信します。

無効 チェックデジット確認後 送信する: スキャナは、Codabar (NW7) バーコードの整合性をチェックして、データがチェックデジットアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは、最後の桁を除いて送信されます、失敗したものは送信されません。

有効 チェックデジット確認後 送信する: スキャナは、Codabar (NW7) バーコードの整合性をチェックして、データがチェックデジットアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは、最後の桁も含め送信されます、失敗したものは送信されません。



@CBACHK0

** 無効



@CBACHK2

有効 チェックデジット送信確認



@CBACHK1

無効 チェックデジット送信確認

注意: 「無効 チェックデジット送信確認」オプションが有効の場合、チェックデジットを除外した後に設定された最小桁数よりも短い長さの Codabar (NW7) のバーコードは読取りされません。(例えば、無効チェックデジット送信確認オプションが有効で、最小桁数が 4 に設定されている場合、チェックデジットを含めた全長 4 文字の Codabar (NW7) バーコードを読み取ることはできません)



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

スタート / ストップ キャラクター



@CBATSC0

** 無効 スタート / ストップ キャラクターの送信



@CBATSC1

有効 スタート / ストップ キャラクターの送信



@CBASCF0

** ABCD/ABCD(大文字) スタート / ストップ キャラクター



@CBASCF1

ABCD/TN*E(大文字) スタート / ストップ キャラクター



@CBASCF2

abcd/abcd(小文字) スタート / ストップ キャラクター



@CBASCF3

abcd/tn*e(小文字) スタート / ストップ キャラクター



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

Codabar (NW7) の桁数設定

スキャナは、最大と最小の桁数設定をした Codabar (NW7) バーコードを読み取りするように設定できます。この設定をするには、最小桁数と最大桁数を設定する必要があります。

最小桁数が最大桁数より大きく設定されている場合、スキャナは Codabar (NW7) のバーコードのみを最小または最大桁数で読み取ります。最小の長さが最大の長さと同じである場合、その長さの Codabar (NW7) のバーコードのみが読み取られます。



最小桁数 設定



最大桁数 設定

例: 8～12 文字の Codabar (NW7) バーコードを読み取りするようにスキャナを設定する

1. 「Enter Setup」バーコードをスキャンします。
2. 「最小桁数 設定」バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数値バーコード」の「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
5. 「最大桁数 設定」バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数値バーコード」の「1」と「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
8. 「Exit Setup」バーコードをスキャンします。



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

Code 93

Code 93 を工場出荷時設定に戻す



@C93DEF

Code 93 を工場出荷時設定に戻す

有効 / 無効 **Code 93**



@C93ENA1

** 有効 **Code 93**



@C93ENA0

無効 **Code 93**

注: スキャナが Code 93 バーコードを識別できない場合は、「Enter Setup」バーコードをスキャンしてから、「有効 Code 93」バーコードをスキャンしてください。



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

チェックデジットの確認設定

チェックデジットは Code 93 ではオプションで、最後の文字として追加できます。これは、データの整合性を検証するために使用される計算値です。

無効: スキャナは、Code 93 バーコードをそのまま送信します。

無効 チェックデジット確認後 送信する: スキャナは、Code 93 バーコードの整合性をチェックして、データがチェックデジットアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは、最後の桁を除いて送信されます、失敗したものは送信されません。

有効 チェックデジット確認後 送信する: スキャナは、Code 93 バーコードの整合性をチェックして、データがチェックデジットアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは、最後の桁も含め送信されます、失敗したものは送信されません。



@C93CHK0

無効



@C93CHK2

有効 チェックデジット送信確認



@C93CHK1

** 無効 チェックデジット送信確認

注意: 「無効 チェックデジット送信確認」オプションが有効の場合、チェックデジットを除外した後に設定された最小桁数よりも短い長さの Code 93 のバーコードは読取りされません。（例えば、無効チェックデジット送信確認オプションが有効で、最小桁数が 4 に設定されている場合、チェックデジットを含めた全長 4 文字の Code 93 バーコードを読み取ることはできません）



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

Code 93 の桁数設定

スキャナは、最大と最小の桁数設定をした Code 93 バーコードを読み取りするように設定できます。この設定をするには、最小桁数と最大桁数を設定する必要があります。

最小桁数が最大桁数より大きく設定されている場合、スキャナは Code 93 のバーコードのみを最小または最大桁数で読み取ります。最小の長さが最大の長さと同じである場合、その長さの Code 93 のバーコードのみが読み取られます。



@C93MIN

最小桁数 設定



@C93MAX

最大桁数 設定

例: 8～12 文字の Code 93 バーコードを読み取りするようにスキャナを設定する

1. 「Enter Setup」バーコードをスキャンします。
2. 「最小桁数 設定」バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数値バーコード」の「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
5. 「最大桁数 設定」バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数値バーコード」の「1」と「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
8. 「Exit Setup」バーコードをスキャンします。



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

Code 11

Code 11 を工場出荷時設定に戻す



@C11DEF

Code 11 を工場出荷時設定に戻す

有効 / 無効 **Code 11**



@C11ENA1

有効 **Code 11**



@C11ENA0

** 無効 **Code 11**

注: スキャナが Code 11 バーコードを識別できない場合は、「Enter Setup」バーコードをスキャンしてから、「有効 Code 11」バーコードをスキャンしてください。



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

チェックデジットの確認設定

チェックデジットはCode 11ではオプションで、最後の1～2文字として追加できます。これは、データの整合性を検証するために使用される計算値です。

無効オプションが有効な場合、スキャナはCode 11のバーコードをそのまま送信します。



@C11CHK0

無効



@C11CHK1

**** One チェックデジット, MOD11**



@C11CHK2

Two チェックデジット s, MOD11/MOD11



@C11CHK3

Two チェックデジット s, MOD11/MOD9



@C11CHK4

One チェックデジット, MOD11 (Len<=10)

Two チェックデジット s, MOD11/MOD11 (Len>10)



@C11CHK5

One チェックデジット, MOD11 (Len<=10)

Two チェックデジット s, MOD11/MOD9 (Len>10)



@C11TCK0

**** 無効 チェックデジット送信**



@C11TCK1

有効 チェックデジット送信

注: チェックデジット機能と「無効 チェッキデジット送信」を設定すると、チェックデジットを除外した後に設定された最小桁数よりも短いCode 11のバーコードは読取りされません。

(例えば、「One チェックデジット, MOD11」、「無効 チェックデジット送信」を設定し、最小桁数が4に設定されている場合、チェックデジットを含めた合計4文字のCode 11バーコードを読み取ることはできません)。



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

Code 11 の桁数設定

スキャナは、最大と最小の桁数設定をした Code 11 バーコードを読み取りするように設定できます。この設定をするには、最小桁数と最大桁数を設定する必要があります。

最小桁数が最大桁数より大きく設定されている場合、スキャナは Code 11 のバーコードのみを最小または最大桁数で読み取ります。最小の長さが最大の長さと同じである場合、その長さの Code 11 のバーコードのみが読み取られます。



@C11MIN

最小桁数 設定



@C11MAX

最大桁数 設定

例: 8～12 文字の Code 11 バーコードを読み取りるようにスキャナを設定する

1. 「Enter Setup」バーコードをスキャンします。
2. 「最小桁数 設定」バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数値バーコード」の「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
5. 「最大桁数 設定」バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数値バーコード」の「1」と「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
8. 「Exit Setup」バーコードをスキャンします。



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

Plessey

Plessey を工場出荷時設定に戻す



@PLYDEF

Plessey を工場出荷時設定に戻す

有効 / 無効 **Plessey**



@PLYENA1

有効 **Plessey**



@PLYENA0

** 無効 **Plessey**

注: スキャナが **Plessey** バーコードを識別できない場合は、「Enter Setup」バーコードをスキャンしてから、「有効 **Plessey**」バーコードをスキャンしてください。



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

チェックデジットの確認設定

チェックデジットはPlessey ではオプションで、最後の 2 文字として追加できます。これは、データの整合性を検証するために使用される計算値です。

無効: スキャナは、Plessey バーコードをそのまま送信します。

無効 チェックデジット確認後 送信する: スキャナは、Plessey バーコードの整合性をチェックして、データがチェックデジットアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは、最後の 2 桁を除いて送信されます、失敗したものは送信されません。

有効 チェックデジット確認後 送信する: スキャナは、Plessey バーコードの整合性をチェックして、データがチェックデジットアルゴリズムに準拠していることを確認します。チェックに合格したバーコードは、最後の桁も含め送信されます、失敗したものは送信されません。



無効



有効 チェックデジット送信確認



** 無効 チェックデジット送信確認

注: 「無効 チェックデジット送信確認」オプションが有効の場合、チェックデジットを除外した後に設定された最小桁数よりも短い長さの Plessey のバーコードは読取りされません。（例えば、無効チェックデジット送信確認オプションが有効で、最小桁数が 4 に設定されている場合、チェックデジットを含めた全長 4 文字の Plessey バーコードを読み取ることはできません）



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

Plessey の桁数設定

スキャナは、最大と最小の桁数設定をした Plessey バーコードを読み取りするように設定できます。この設定をするには、最小桁数と最大桁数を設定する必要があります。

最小桁数が最大桁数より大きく設定されている場合、スキャナは Plessey のバーコードのみを最小または最大桁数で読み取ります。最小の長さが最大の長さと同じである場合、その長さの Plessey のバーコードのみが読み取られます。



@PLYMIN

最小桁数 設定



@PLYMAX

最大桁数 設定

例: 8～12 文字の Plessey バーコードを読み取りするようにスキャナを設定する

1. 「Enter Setup」バーコードをスキャンします。
2. 「最小桁数 設定」バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数値バーコード」の「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
5. 「最大桁数 設定」バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数値バーコード」の「1」と「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
8. 「Exit Setup」バーコードをスキャンします。



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

MSI-Plessey

MSI-Plessey を工場出荷時設定に戻す



@MSIDEF

MSI-Plessey を工場出荷時設定に戻す

有効 / 無効 **MSI-Plessey**



@MSIENA1

有効 **MSI-Plessey**



@MSIENA0

** 無効 **MSI-Plessey**

注: スキャナが MSI-Plessey バーコードを識別できない場合は、「Enter Setup」バーコードをスキャンしてから、「有効 MSI-Plessey」バーコードをスキャンしてください。



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

チェックデジットの確認設定

無効オプションが有効な場合、スキャナは MSI-Plessey バーコードをそのまま送信します。

チェックデジットは MSI-Plessey ではオプションで、最後の 1～2 文字として追加できます。これは、データの整合性を検証するために使用される計算値です。

無効:スキャナは、MSI-Plessey バーコードをそのまま送信します。



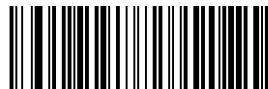
@MSICLK0

無効



@MSICLK1

** One チェックデジット, MOD10



@MSICLK2

Two チェックデジット s, MOD10/MOD10



@MSICLK3

Two チェックデジット s, MOD10/MOD11



@MSITCK0

** 無効 チェックデジット送信



@MSITCK1

有効 チェックデジット送信

注:チェックデジット機能と「無効 チェッキデジット送信」を設定すると、チェックデジットを除外した後に設定された最小桁数よりも短い MSI-Plessey のバーコードは読取りされません。

(例えば、「One チェックデジット, MOD10」、「無効 チェックデジット送信」を設定し、最小桁数が 4 に設定されている場合、チェックデジットを含めた合計 4 文字の Code 11 バーコードを読み取ることはできません)。



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

MSI-Plessey の桁数設定

スキャナは、最大と最小の桁数設定をした MSI-Plessey バーコードを読み取りするように設定できます。この設定をするには、最小桁数と最大桁数を設定する必要があります。

最小桁数が最大桁数より大きく設定されている場合、スキャナは MSI-Plessey のバーコードのみを最小または最大桁数で読み取ります。最小の長さが最大の長さと同じである場合、その長さの MSI-Plessey のバーコードのみが読み取られます。



最小桁数 設定



最大桁数 設定

例:8～12 文字の MSI-Plessey バーコードを読み取りするようにスキャナを設定する

1. 「Enter Setup」バーコードをスキャンします。
2. 「最小桁数 設定」バーコードをスキャンします。
3. 付録の「数値バーコード」の「8」をスキャンします。
4. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
5. 「最大桁数 設定」バーコードをスキャンします。
6. 付録の「数値バーコード」の「1」と「2」をスキャンします。
7. 付録の「バーコードの保存/取り消し」セクションの「保存」バーコードをスキャンします。
8. 「Exit Setup」バーコードをスキャンします。



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

GS1 Databar

GS1 Databar を工場出荷時設定に戻す



@RSSDEF

GS1 Databar を工場出荷時設定に戻す

有効 / 無効 **GS1 Databar**



@RSSENA1

** 有効 **GS1 Databar**



@RSSENA0

無効 **GS1 Databar**

注: スキャナが GS1 Databar バーコードを識別できない場合は、「Enter Setup」バーコードをスキャンしてから、「有効 GS1 Databar」バーコードをスキャンしてください。

GS1 AI 識別子 () 付加出力



@GS1AIP0

** 無効 **GS1 AI 括弧**



@GS1AIP1

有効 **GS1 AI 括弧**

注: シリアルナンバーで下記以降の物は GS1 AI 識別 () に対応しております。

N1W00601～

N1B00511～



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

第七章 データフォーマッタ

イントロダクション

データフォーマッタを使用してスキャナの出力を変更することができます。

たとえば、データフォーマッタを使用して、バーコードデータの特定のポイントに文字を挿入したり、バーコードデータがスキャンされているときにその文字を抑制/置換/送信することができます。

通常は、バーコードをスキャンすると自動的に出力されます。しかし、フォーマットを作成するときは、データを出力するために、フォーマットプログラミング内で "send" コマンド (この章の「コマンドの送信」を参照) を使用する必要があります。データフォーマットのフォーマッタコマンドの最大サイズは 116 文字です。

データフォーマットを追加する

データフォーマットはバーコードデータの編集にのみ使用されます。最大 4 つのデータフォーマットをプログラムすることができますが、Format_0、Format_1、Format_2、および Format_3 を含む。データフォーマットを作成するときは、データフォーマットのアプリケーションスコープ (バーコードタイプやデータ長など) を指定し、フォーマッタコマンドを含める必要があります。

スキャンしたデータがデータフォーマット要件と一致しない場合は、不一致エラービープ音が鳴ります (不一致エラービープ音がオンの場合)。データフォーマットをプログラミングするには、バーコードによるプログラミングとシリアルコマンドによるの 2 種類があります。



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

バーコードによるプログラミング

特定のバーコードをスキャンしてデータフォーマットをプログラミングする方法について説明します。適切な設定手順に従わないとプログラミングは失敗します。データフォーマットを作成するために添付の「数値バーコード」を参照してください。

ステップ 1:「Enter Setup」バーコードをスキャンします。

ステップ 2:「Add Data Format」コードをスキャンし、データフォーマットを追加します。



@DFMSET

Add Data Format



@DFMADD

Add Data Format2

※シリアルナンバーで下記以降の物は Add Data Format2 のバーコード<@DFMADD>を読んでください。

N1W00601～

N1B00511～

ステップ 3:データフォーマットを選択します。数値バーコード 0、1、2、3 をスキャンし、Format_0、Format_1、Format_2、Format_3 に設定します。

ステップ 4:フォーマットのコマンドタイプを選択します。どのタイプのフォーマット・コマンドを使用するかを指定します。数値バーコード 6 をスキャンして、フォーマットのコマンドタイプ 6 を選択します。（詳細は、この章の「フォーマット・コマンド・タイプ 6」を参照してください）。

ステップ 5:インターフェイスタイプを設定します。任意のインターフェイスタイプについて 999 をスキャンします。

ステップ 6:各種バーCode ID ナンバーを設定する。付録の「各種バーCode ID ナンバー」の項を参照して、データフォーマットを適用するシンボルを探してください。各種バーCode ID ナンバーの 3 桁の数値バーコードをスキャンします。すべての各種バーコードのデータフォーマットを作成する場合は、999 とスキャンします。



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

ステップ 7: バーコードデータの長さを設定するこのシンボルに許容されるデータの長さを指定します。データの長さを表す4桁の数字のバーコードをスキャンします。例えば、32文字の場合、0032とスキャンをします。9999と設定した場合、すべての長さを意味します。

ステップ 8: フォーマットコマンドを入力します。この章の「データフォーマットコマンド」を参照してください。データの編集に必要なコマンドを表す英数字のバーコードをスキャンします。たとえば、コマンドがF141の場合は、“F”、“1”、“4”、“1”をスキャンする必要があります。コマンドは116文字まで使用できます。

ステップ 9: データフォーマットを保存するには、付録の「バーコードの保存/取り消し」から保存バーコードをスキャンします。

例: フォーマットコマンドタイプ 6 を使用するプログラム format_0、適用可能な 10 文字を含むコード 128、すべての文字の後に “A”を送信する。

- | | |
|--|------------------------|
| 1. 「Enter Setup」バーコードをスキャンします | セットアップモードに入ります。 |
| 2. データフォーマットの「Add Data Format」をスキャンします | データフォーマットを追加する。 |
| 3. 「0」の数値バーコードをスキャンします | フォーマット_0 を選択。 |
| 4. 「6」の数値バーコードをスキャンする | フォーマットコマンドタイプを選択する 6。 |
| 5. 「9」の数値バーコードを 3 回スキャンする | すべてのインターフェイスタイプ。 |
| 6. 「0」「0」「2」の数値バーコードをスキャンする | コード 128 のみ適用。 |
| 7. 「0」「0」「1」「0」の数値バーコードをスキャンする | 10 文字の長さのみ適用 |
| 8. 「F」「1」「4」「1」の数値バーコードをスキャンする | すべての文字を続けて “A”(HEX:41) |
| 9. 「保存」バーコードをスキャンする | データフォーマットを保存する |



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

シリアルコマンドによるプログラミング

データフォーマットは、ホストデバイスから送信されたシリアルコマンド(HEX)によって作成することもできます。すべてのコマンドは、大文字で入力する必要があります。構文は、次の要素で構成されています。

プリフィックス: “~<SOH> 0000” (HEX:7E 01 30 30 30 30)、6 文字。

ストレージタイプ: “@” (HEX:40) または “#” (HEX:23)、1 文字。

「@」は、スキャナの電源を切ったり再起動しても失われない永続的な設定を意味します。

“#”は一時的な設定で、スキャナの電源を切ったりリブートしたりすることで失われます。

データフォーマット

の追加コマンド: “DFMSET” (HEX:44 46 4D 53 45 54)、6 文字。

データフォーマット: “0” (HEX:30) または “1” (HEX:31) または “2” (HEX:32) または “3” (HEX:33) 1 文字。「0」、「1」、「2」、「3」はそれぞれ Format_0、Format_1、Format_2、Format_3 を表す。

フォーマットコマンドタイプ: “6” (HEX:36)、1 文字。

インタフェースタイプ: “999” (HEX:39 39 39)、3 文字。

各種バーコード ID ナンバー: データ書式を適用する各種バーコード ID ナンバー 3 文字。999 はすべてのバーコードを示します。

桁数設定: このシンボルのために受け入れられるデータの長さは、4 文字。9999 はすべての長さを示します。例えば、0032 として 32 文字を入力してください。

フォーマットコマンド: データの編集に使用されるコマンド文字列、最大 116 文字。詳細については、この章の「フォーマット・コマンド・タイプ 6」の項を参照してください。

サフィックス: “; <ETX>” (HEX:3B 03)、2 文字です。

例: フォーマットコマンドタイプ 6 を使用したプログラム format_0、10 桁のコードを含むコード 128 は、すべての文字の後に “A” を続けて送信します。

入力: 7E 01 30 30 30 30 40 44 46 4D 53 45 54 30 36 39 39 39 30 30 33 39 39 39 39 46 31 34 31 3B 03

(~<SOH> 0000 @ DFMSET069990020010F141; <ETX>)

応答: 02 01 30 30 30 30 40 44 46 4D 53 45 54 30 36 39 39 39 30 30 33 39 39 39 46 31 34 31 06 3B 03

(<STX> <SOH> 0000 @ DFMSET069990020010F141 <ACK>; <ETX>)



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

有効 / 無効 データフォーマット

データフォーマットを無効にすると、バーコードデータは、プリフィックスとサフィックスを含めて、読み取り時に出力されます。



** 無効 データフォーマット

作成したデータフォーマットに変換します。データフォーマットは、次の設定を適用できます。

有効 データフォーマット 必須, プリフィックス/サフィックス 適用 : データフォーマットの要件を満たすスキャンデータがそれに応じて変換され、プリフィックスとサフィックスと一緒に出力されます。(プリフィックスとサフィックスが有効な場合) データフォーマットの要件に一致しないデータは、エラービープ音(不一致エラービープ音がオンになっている場合)が鳴り、そのバーコードのデータは送信されません。

有効 データフォーマット 必須, プリフィックス/サフィックス 除去 : データフォーマットの要件を満たすスキャンデータは、それに応じて変換され、プリフィックスとサフィックスが有効でなくても、プリフィックスとサフィックスなしで出力されます。データフォーマットの要件に一致しないデータは、エラービープ音(不一致エラービープ音がオンになっている場合)が鳴り、そのバーコードのデータは送信されません。

有効 データフォーマット 不要, プリフィックス/サフィックス 適用 : データフォーマットの要件を満たすスキャンデータは、それに応じて変換され、プリフィックスとサフィックス(プリフィックスとサフィックスが有効な場合)とともに出力されます。データフォーマットの要件に合致しないバーコードデータは、プリフィックスとサフィックス(プリフィックスとサフィックスが有効な場合)と共に読み取られて送信されます。

有効 データフォーマット 不要, プリフィックス/サフィックス 除去 : データフォーマットの要件を満たすスキャンデータは、それに応じて変換され、プリフィックスとサフィックスが有効でなくても、プリフィックスとサフィックスなしで出力されます。データフォーマットの要件に合致しないバーコードデータは、プリフィックスとサフィックス(プリフィックスとサフィックスが有効な場合)と共に読み取られて送信されます。



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup



@DFMENA1

有効 データフォーマット 必須,
プリフィックス/サフィックス 適用



@DFMENA2

有効 データフォーマット 必須,
プリフィックス/サフィックス 除去



@DFMENA3

有効 データフォーマット 不要,
プリフィックス/サフィックス 適用



@DFMENA4

有効 データフォーマット 不要,
プリフィックス/サフィックス 除去

不一致エラービープ音

不一致エラービープが ON になっている場合、必要なデータフォーマットに一致しないバーコードが検出されると、スキャナはエラービープ音を鳴らします。



@DFMTON0

有効 不一致エラービープ



@DFMTON1

**無効 不一致エラービープ



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

複数データフォーマット

データフォーマットが有効になったら、以下の適切なバーコードをスキャンして、1 つまたは複数のデータ形式を使用するようにスキャナを設定できます。

無効 複数データフォーマット: 1 つのデータフォーマット(デフォルト:Format_0)のみが使用されます。別のデータフォーマットに切り替える方法については、下記の「データフォーマットの選択」を参照してください。

有効 複数データフォーマット: スキャンしたデータが 1 つのデータフォーマットの要件に一致するまで、スキャナは Format_0 から Format_3 に切り替わります。一致するものが見つからない場合、スキャナはエラービープ音(不一致エラービープ が有効になっている場合)が鳴り、データは送信されません。



@DFMMEN0

**無効 複数データフォーマット



@DFMMEN1

有効 複数データフォーマット



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

データフォーマットの選択

下の適切なバーコードをスキャンすることによって、使用するデータフォーマットを選択することができます。この設定は、複数データフォーマット機能がオフの場合にのみ有効です。



@DFMUSE0

**** Format_0**



@DFMUSE1

Format_1



@DFMUSE2

Format_2



@DFMUSE3

Format_3



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

シングルスキャンのデータフォーマットの変更

1 回のスキャンでデータフォーマットを切り替えることができます。次のバーコードはここで選択されたデータフォーマットでスキャンされ、上で選択した形式に戻ります。この設定は、「無効 複数データフォーマット」が設定されている場合のみ有効です。

例えば、Format_3 のデータフォーマットを使用されている場合、以下の「Single Scan - Format_1」バーコードをスキャンすることで、1 回のスキャンのみ Format_1 のデータフォーマットに切り替えることができます。なお、Format_1 を設定使用後、Format_3 に戻ります。

注:この設定は、スキャナの電源を切ったり(USB ケーブルを抜いたり)、デバイスの電源を切ったり再起動をすることで失われます。



Single Scan - Format_0



Single Scan - Format_1



Single Scan - Format_2



Single Scan - Format_3



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

データフォーマットの消去

スキャナからデータフォーマットを削除する方法は 2 つあります。

1 つのデータフォーマットを削除: Clear One バーコード、数字のバーコード (0~3)、および保存バーコードをスキャンします。たとえば、Format_2 を削除するには、Clear One バーコード、2 つのバーコード、および Save バーコードをスキャンする必要があります。

すべてのデータフォーマットを削除する: Clear All バーコードをスキャンします。



@DFMCAL

Clear All



@DFMCLR

Clear One

データフォーマットの確認

次のバーコードをスキャンして、作成したデータフォーマットの情報を取得できます。たとえば、この章の「バーコードを使用したプログラミング」の例のように Format_0 を追加した場合、クエリ結果はデータフォーマット 0:069990020010F141;になります。



@DFMQCU

Query Data Formats



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

フォーマッタ コマンド

データフォーマッタで作業するとき、仮想カーソルは入力データ文字列に沿って移動します。次のコマンドは、このカーソルを異なる位置に移動するために使用されますが、最終出力にデータを選択、置換、挿入することができます。コマンドに含まれる ASCII 文字の 16 進値については付録の「ASCII テーブル」を参照してください。

コマンドの送信

F1 すべての文字を送信

構文= F1xx (xx:挿入文字の 16 進値)

現在のカーソル位置から始まり、その後に挿入文字が続く、入力メッセージのすべての文字を出力メッセージに含めます。



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

F2 複数の文字を送信する

構文= F2nnxx (nn: 文字数の数値 (00-99); xx: 挿入文字の 16 進値)

出力メッセージに、挿入文字の後ろにいくつかの文字を含めます。現在のカーソル位置から開始して、"nn" 文字または入力メッセージの最後の文字から続けて、文字 "xx" を続けます。

F2 例: 複数の文字を送信する



上記のバーコードから最初の 10 文字を送信してから、CR を送信します。

コマンド文字列: F2100D

F2 は「複数の文字を送信する」コマンドです

10 は送信する文字数です

0D は CR の 16 進値です

データは次のように出力されます: 1234567890<CR>



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

F3 すべての文字を特定の文字に送信する

構文= F3ssxx(ss:特定の文字の 16 進値; xx:挿入文字の 16 進値)

現在のカーソル位置にある文字から始まり、特定の文字「ss」に続けて文字「xx」を続けて「すべての文字を出力します。カーソルは前方に移動し”ss”文字を変換します。

F3 例:すべての文字から特定の文字まで送信します。



1234567890ABCDEFGHIJ

上記のバーコードを使用し、すべての文字を「D」までを含めて送信します。その後に CR を続けて出力します。

コマンド文字列:F3440D

F3 は「特定の文字まですべての文字を送信する」コマンドです

44 は "D"

0D は CR の 16 進値です

データは次のように出力されます:1234567890ABC<CR>



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

E9 最後の文字以外はすべて送信

構文= E9nn (nn:メッセージの最後に送信されない文字数の数値(00-99))

最後の "nn"文字以外のすべてを出力メッセージに含めます。現在のカーソル位置から開始します。カーソルは、最後に入力されたメッセージ文字を含む 1 つの位置に前方に移動します。

F4 文字を複数回挿入する

構文= F4xxnn (xx:挿入文字の 16 進値、nn:送信する必要がある回数の数値(00-99))

出力メッセージに「xx」文字「nn」回を送信し、現在の位置にカーソルを置きます。

E9 と F4 例:最後の文字を除くすべてを送信し、その後に 2 つの<Tab>を続けます。



1234567890ABCDEFGHIJ

上のバーコードから最後の 8 文字を除くすべての文字を送信し、その後に 2 つのタブを続けます。

コマンド文字列:E908F40902

E9 は「最後の文字をすべて送信する」コマンドです

08 は無視する最後の文字数です

F4 は「複数の文字を挿入する」コマンドです

09 は Tab の 16 進値です

02 は、タブ文字が送信された回数です

データは次のように出力されます:1234567890AB <tab> <tab>

B3 バーコードの種類を挿入する



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

カーソルを動かさず、出力メッセージにバーコードの種類名を挿入します。

B4 バーコード文字長の挿入

カーソルを移動せずに、出力メッセージにバーコードの長さを挿入します。文字数は数値として表され、先頭のゼロは含まれません。

B3 と B4 例: バーコードの種類名と文字長を挿入する



1234567890ABCDEFGHIJ

上のバーコードからバーコードデータの前にバーコードの種類名と文字長を送信します。これらの挿入をスペースで区切り、CR で終了します。

コマンド文字列: B3F42001B4F42001F10D

B3 は「バーコードの種類名の挿入」コマンドです

F4 は「文字を複数回挿入する」コマンドです

20 はスペースの 16 進値です

01 はスペースの送信回数

B4 は「バーコード文字長の挿入」コマンドです

F4 は「文字を複数回挿入する」コマンドです

20 はスペースの 16 進値です

01 はスペースの送信回数

F1 は「すべての文字を送信」コマンドです

0D は CR の 16 進値です

データは次のように出力されます: Code128 20 1234567890ABCDEFGHIJ<CR>



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

B5 キーストロークを挿入する

構文= B5nnssxx (nn:押されたキーの数(修飾キーなし)、ss:下の表の修飾キー、xx:付録の「Unicode キーマップ」からのキー番号)キーストロークまたはキーストロークの組み合わせを挿入します。キーストロークはキーボードによって異なります(付録の「Unicode キーマップ」を参照)。このコマンドは、USB HID-KBW でのみ使用できます。

修飾キー	
No Key Modifier	00
Shift Left	01
Shift Right	02
Alt Left	04
Alt Right	08
Control Left	10
Control Right	20

たとえば、B501001F は、米国スタイルのキーボードに「a」を挿入します。

B5 =コマンド、01 =押されたキーの数(キー修飾子なし)、00 は修飾キーなし、1F は「a」キーです。「A」を挿入する場合は、B501011F または B501021F が入力されます。

2 回のキーストロークがある場合、構文は 1 回のキーストロークで Syntax = B5nnssxx から Syntax = B5nnssxxssxx に変わります。「aA」を挿入する例は、次のとおりです。B502001F011F

注:修飾キーは、必要なときに一緒に追加できます。

例:Shift Left + Alt Left + Control Left = 15



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

移動コマンド

F5 カーソルを複数の文字の前に移動する

Syntax=F5nn(nn:カーソルを先に移動する文字数の数値(00～99)、現在のカーソル位置からカーソルを 前方から“nn”文字分移動します。

F5 例:カーソルを前方から 3 文字に移動し、データを送信します



1234567890ABCDEFGHIJ

カーソルを前方から 3 文字分に移動させ、残りのバーコードデータを上のバーコードから送信し、CR で終了します。

コマンド文字列:F503F10D

F5 は「カーソルを複数の文字に移動する」コマンドです

03 はカーソルを移動する文字数です。

F1 は「すべての文字を送信」コマンドです

0D は CR の 16 進値です

データは次のように出力されます:4567890ABCDEFGHIJ <CR>



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

F6 カーソルを後方から数文字分に移動する

構文= F6nn (nn:カーソルを戻す文字数の数値(00～99))

カーソルを現在のカーソル位置から「nn」文字に戻します。

F7 カーソルを先頭に移動する

構文= F7

カーソルを入力メッセージの最初の文字に移動します。

EA カーソルを最後まで移動

構文= EA

カーソルを入力メッセージの最後の文字に移動します。



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

検索コマンド

F8 文字を前方に検索する

Syntax=F8xx (xx:検索文字の 16 進値)

カーソルが "xx" 文字を指したままで、現在のカーソル位置から "xx" 文字を前方に入力メッセージを検索します。

F8 例:特定の文字の後に始まるバーコードデータを送信する



上記のバーコードを使用から、バーコード内の "D" を検索し、"D" を含む後続すべてのデータを送信します。

コマンド文字列:F844F10D。

F8 は「文字の前方検索」コマンドです。

44 は "D" の 16 進値です。

F1 は「すべての文字を送信」コマンドです。

0D は CR の 16 進値です

データは次のように出力されます:DEFGHIJ <CR>

Syntax=F9xx (xx:検索文字の 16 進値)

現在のカーソル位置から "xx" 文字を後方に入力メッセージを検索し、カーソルを "xx" 文字に向ける。



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

B0 前方から文字列を検索する

Syntax=B0nnnnS (nnnn: 文字列の長さ(最大 9999); S: 文字列内の各文字の ASCII 16 進数)

現在のカーソル位置から "S" 文字列を前方に検索し、"S" 文字列を指すカーソルを残す。たとえば、B0000454657374 は、4 文字の文字列 "Test" が最初に現れる場所を検索します。

B0 例: 文字列の後に始まるバーコードデータを送信する



上のバーコードを使用して、バーコード内の文字「FGH」を検索し、「FGH」を含む後続のすべてのデータを送信します。

コマンド文字列: B00003464748F10D

B0 は「文字列を検索する」コマンドです。

0003 は文字列の長さ(3 文字)です。

46 は "F" の 16 進数値です。

47 は "G" の 16 進値です。

48 は "H" の 16 進値です。

F1 は「すべての文字を送信」コマンドです。

0D は CR の 16 進値です。

データは次のように出力されます。FGHIJ <CR>



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

B1 逆方向に文字列を検索する。

Syntax=B1nnnnS(nnnn: 文字列の長さ(最大 9999); S: 文字列内の各文字の ASCII 16 進数)

現在のカーソル位置から "S" 文字列を後方から検索し、"S" 文字列を指すカーソルを残す。たとえば、B1000454657374 は、4 文字の文字列 "Test" を後方から検索します。

E6 一致しない文字を前方から検索する

Syntax=E6xx(xx: 検索文字の 16 進値)

現在のカーソル位置から最初に "xx" 文字ではない文字を検索します。

E6 例: バーコードデータの先頭にあるゼロを削除する



この例では、ゼロ詰めされたバーコードを示しています。これらのゼロを無視して、その後続くすべてのデータを送信することができます。E6 は、ゼロではない最初の文字を前方検索し、その後すべてのデータを送信し、その後に CR を送信します。

コマンド文字列: E630F10D

E6 は「一致しない文字を検索する」コマンドです

30 は 0 の 16 進数です

F1 は「すべての文字を送信」コマンドです

0D は CR の 16 進値です

データは次のように出力されます。37692<CR>



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

E7 後方から一致しない文字を検索する

Syntax=E7xx (xx:検索文字の 16 進値)

後方から最初の“xx”文字ではない文字を検索します。



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

その他のコマンド

FB 文字を表示しない

Syntax=FBnnxxyy..zz (nn:出力させない文字数の数値(00-15) xxyy..zz:出力させない文字の 16 進数)

カーソルが他のコマンドによって進められるので、現在のカーソル位置から開始して、最大 15 の異なる文字を出力させません。

FB の例:バーコードデータのスペースを削除する



この例は、データにスペースを含むバーコードを示しています。スペースを削除してからデータを送信することができます。

コマンド文字列:FB0120F10D

FB は「抑制文字」コマンドです。

01 は抑制する文字数です。

20 はスペースの 16 進値です。

F1 は「すべての文字を送信」コマンドです。

0D は CR の 16 進値です。

データは次のように出力されます。34567890 <CR>



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

E4 文字を置換する

構文= E4nnxx1xx2yy1yy2 ... zz1zz2 (nn:置換される文字数と置換文字の合計数、xx1:置換される文字、xx2:置換文字、zz1 と zz2 まで続く)

カーソルを動かすことなく、出力メッセージに最大 15 文字を置き換えます。

E4 例: バーコードデータの CR をゼロに置き換えます



1234056780ABC

ホストアプリケーションに含まれない文字がバーコードに含まれている場合は、E4 コマンドを使用してそれらの文字を別の文字に置き換えることができます。この例では、上記のバーコードの 0 を CR に置き換えます。

コマンド文字列:E402300DF10D

E4 は「文字の置換」コマンドです。

02 は置き換えられる文字の合計数と置換文字を加えたものです。(0 は CR に置き換えられ、合計文字= 2)

30 は 0 の 16 進値です。

0D は CR の 16 進値です。(0 を置き換える文字)

F1 は「すべての文字を送信」コマンドです。

0D は CR の 16 進値です。

データは次のように出力されます。1234

5678

ABC

<CR>



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

BA 文字列を別の文字列に置き換える

Syntax=BA $\overline{nn}$ NN1SS1NN2SS2

$\overline{nn}$: 置換される数、 $\overline{nn} = 00$ または $\overline{nn} >$ = 置換される文字列の回数、その文字列すべてを置き換えます。

NN1: 置換する文字列の長さ、 $NN1 > 0$ 。

SS1: 置換えられる文字列の各文字の ASCII 16 進値。

NN2: 置換文字列の長さ、 $NN2 > = 0$ 。文字列「SS1」を NULL (すなわち、Delete の文字列「SS1」) に置き換えるには、NN2 を 00 に設定して SS2 を省略する必要があります。

SS2: 置換文字列内の各文字の ASCII 16 進値

現在のカーソル位置から、「SS1」の文字列(「NN1 の長さ」)を前方検索し、すべての「SS1」の文字列が交換されるまで、(「NN2」の長さ)「SS2」の文字列と置換します。

BA の例: "23"をバーコードデータの "ABC"に置き換えます



cd123abc23bc12ab232

バーコードにホストアプリケーションに含まれない文字列が含まれている場合は、BA コマンドを使用して文字列を別のものに置き換えることができます。この例では、上記のバーコードの "23"を "ABC"に置き換えます。

コマンド文字列:BA0002323303414243F100

BA は「文字列を別の文字列に置き換える」コマンドです。

00 は行われる置換の数、00 はその文字列のすべてを置き換えることを意味します。



@SETUPN0
Exit Setup



@SETUPN1

EnterSetup

02 は置き換えられる文字列の長さです。

32 は 2 の 16 進値です (置き換えられる文字列の文字)

33 は 3 の 16 進値です (置換する文字列の文字)。

03 は置換文字列の長さです。

41 は A の 16 進値です (置換文字列内の文字)

42 は B の 16 進値 (置換文字列内の文字) です。

43 は C の 16 進値です (置換文字列内の文字)

F1 は「すべての文字を送信」コマンドです。

00 は NUL の 16 進値です。

データは次のように出力されます。cd1ABCabcABCbc12abABC2

BA の例: バーコードデータの最初の "23" だけを削除する

バーコードにホストアプリケーションが削除したい文字列がある場合は、BA コマンドを使用して文字列を NUL に置き換えることができます。この例では、上記のバーコードデータの最初の "23" だけを削除します。

コマンド文字列: BA0102323300F100

BA は「文字列を別の文字列に置き換える」コマンドです。

01 は、置き換えの回数です。

02 は置き換えられる文字列の長さです。

32 は 2 の 16 進値です (置き換えられる文字列の文字)

33 は 3 の 16 進値です (置き換えられる文字列の文字)

00 は置換文字列の長さ、00 は置換する文字列を NUL に置き換えることを意味します。

F1 は「すべての文字を送信」コマンドです。

00 は NUL の 16 進値です。

データは次のように出力されます。cd1abc23bc12ab232



@SETUPN0

Exit Setup



@SETUPN1
Enter Setup

EF 遅延を挿入する

Syntax=EFnnnn (nnnn:5ms 刻みの遅延、9999 まで)

現在のカーソル位置から開始して最大 49,995 ミリ秒(5 の倍数)の遅延を挿入します。このコマンドは、USB HID-KBW でのみ使用できます。

EF の例:5 番目と 6 番目の文字の間に 1 秒の遅延を挿入する

バーコードの最初の 5 文字を送信し、1 秒待ってから残りのバーコードデータを送信します。

コマンド文字列:F20500EF0200E900

F2 は「複数の文字を送信する」コマンドです

05 は送信する文字数です

00 は Null 文字の 16 進値です

EF は「遅延挿入」コマンドです

0200 は遅延値 (5msX200 = 1000ms = 1s)

E9 は「最後の文字をすべて送信する」コマンドです

00 はメッセージの最後に送信されない文字の数です



@SETUPN0
Exit Setup

付録

工場出荷時設定

パラメータ		工場出荷時設定	備考
全般設定			
バーコードプログラミング		有効	
バーコードデータのプログラミング		送信しない	
デフォルトスキャンモード		マニュアルモード	
マニュアルモード	読取りタイムアウト	15,000ms	1,000～15,000ms 0: 無限
	自動スリープ	有効	
	スリープまでの時間	500ms	0～6,000ms
バッチモード	読取りタイムアウト	15,000ms	1,000～15,000ms 0: 無限
オートモード	読取りタイムアウト	15,000ms	1,000～15,000ms 0: 無限
	読取り間隔タイムアウト (同じバーコード)	無効 400ms	0～12,000ms 12700: 無限
点滅モード	読取り間隔タイムアウト	0ms	0～7,500ms
センスモード	読取りタイムアウト	15,000ms	1,000～15,000ms 0: 無限
	読取り間隔タイムアウト	0ms	0～7,500ms
	読取り間隔タイムアウト (同じバーコード)	400ms	0～12,000ms 12700: 無限
	感度	High	Level 0～15
連続モード	読取り間隔タイムアウト	0ms	0～7,500ms
	読取り間隔タイムアウト (同じバーコード)	無効 400ms	0～12,000ms 12700: 無限
コマンドトリガーモード	読取りタイムアウト	15,000ms	1,000～15,000ms 0: 無限
不正な読み取りメッセージ		無効 無効	最大 2 桁
セキュリティ		Level 4	
電源投入時のビープ音設定		有効	
読取り時ビープ音設定		有効	
読取り時ビープ音タイプ		タイプ 中音	

パラメータ		工場出荷時設定	備考
読取り時ビーブ音量		音量 小	
読取り時ビーブ音長さ		長さ 長 (120ms)	0~25,500ms
読取り時 LED		有効	
読取り時 LED 点灯間隔		点灯間隔 短 (100ms)	0~25,500ms
読取り時点灯タイミング		データ送信前に表示	
ACK/NAK		無効	
ACK / NAK エラー処理		エラーを無視	
ACK キャラクター		<ACK> (0x06)	
NAK キャラクター		<NAK> (0x15)	
ACK / NAK 送信エラービーブ音		無効	
ACK / NAK リトライ回数設定		3	0~254 255:無制限
ACK/NAK タイムアウト		200ms	0~15,000ms
有効 キャラクター		E (0x45)	
無効 キャラクター		D (0x44)	
通信設定			
デフォルトインターフェイス		USB HID-KBW	
RS-232	ボーレート	9600 bps	
	パリティチェック	無効	
	ストップビット	1	
	データビット	8	
	フロー制御	フロー制御なし	
USB	USB サスペンド	無効	
	キーボードレイアウト	26 - Japan	USB HID-KBW
	インターキーストローク遅延	0ms	USB HID-KBW 0~75ms
	ケースを変換する	ケース変換なし	USB HID-KBW
	エミュレート Alt +キーパッド	無効	USB HID-KBW
	ファンクションキーマッピング	無効	USB HID-KBW
	テンキーパッド エミュレート	無効	USB HID-KBW
	ポーリングレート	1ms	USB HID-KBW
	コードページ	Code Page 1252 (Latin I)	USB HID-KBW
プリフィックス ・ サフィックス			
プリフィックスシーケンス		Code ID+カスタム+AIM ID	
AIM ID プリフィックス		無効	
Code ID プリフィックス		無効	最大 2 桁(0x01-0xFF)
カスタム プリフィックス		無効	最大 11 桁
カスタム サフィックス		無効	最大 11 桁

パラメータ	工場出荷時設定	備考
終端文字 サフィックス	有効 CR (0x0D)	Max. 2 chars
各種バーコード		
ビデオリバース	無効	各種バーコードに対応。
<i>Code 128</i>		
Code 128	有効	
最大桁数	255	
最小桁数	1	
<i>UCC/EAN-128</i>		
UCC/EAN-12	有効	
最大桁数	255	
最小桁数	1	
<i>AIM 128</i>		
AIM 128	無効	
最大桁数	255	
最小桁数	1	
<i>JAN-8 (EAN-8)</i>		
JAN-8 (EAN-8)	有効	
チェックデジット	転送する	
2 桁アドオンコード	無効	
5 桁アドオンコード	無効	
アドオンコード	不要	
JAN-8 (EAN-8) から JAN-13 (EAN-13) への変換	無効	
<i>JAN-13 (EAN-13)</i>		
JAN-13 (EAN-13)	有効	
チェックデジット	転送する	
2 桁アドオンコード	無効	
5 桁アドオンコード	無効	
アドオンコード	不要	
JAN-13 (EAN-13) 290 で始まるアドオンコード必須設定	アドオンコード不要	
JAN-13 (EAN-13) 378/379 で始まるアドオンコード必須設定	アドオンコード不要	
JAN-13 (EAN-13) 414/419 で始まるアドオンコード必須設定	アドオンコード不要	
JAN-13 (EAN-13) 434/439 で始まるアドオンコード必須設定	アドオンコード不要	
JAN-13 (EAN-13) 977 で始まるアドオンコード必須設定	アドオンコード不要	
JAN-13 (EAN-13) 978 で始まるアドオンコード必須設定	アドオンコード不要	
JAN-13 (EAN-13) 979 で始まるアドオンコード必須設定	アドオンコード不要	
<i>ISSN</i>		
ISSN	無効	
<i>ISBN</i>		

パラメータ	工場出荷時設定	備考
ISBN	無効	
ISBN Format	ISBN-13	
<i>UPC-E</i>		
UPC-E0	有効	
UPC-E1	無効	
チェックデジット	転送する	
2 桁アドオンコード	無効	
5 桁アドオンコード	無効	
アドオンコード	不要	
UPC-E を UPC-A に変換する	無効	
プリアンブルキャラクターの送信	プリアンブルなし	
<i>UPC-A</i>		
UPC-A	有効	
チェックデジット	転送する	
2 桁アドオンコード	無効	
5 桁アドオンコード	無効	
アドオンコード	不要	
プリアンブルキャラクターの送信	システムキャラクター	
<i>Interleaved 2 of 5</i>		
Interleaved 2 of 5	有効	
チェックデジットの確認設定	有効	
チェックデジット	送信しない	
最大桁数	255	
最小桁数	6	5 桁以上
<i>Febraban</i>		
Febraban	有効 Febraban, Expand	
1 桁あたりの送信遅延	無効, 70ms	
12 桁あたりの送信遅延	無効, 500ms	
<i>ITF-6</i>		
ITF-6	無効	
チェックデジット	送信しない	
<i>ITF-14</i>		
ITF-14	無効	
チェックデジット	送信しない	
<i>Deutsche 14</i>		
Deutsche 14	無効	
チェックデジット	送信しない	
<i>Deutsche 12</i>		
Deutsche 12	無効	

パラメータ	工場出荷時設定	備考
チェックデジット	送信しない	
<i>COOP 25(Japanese Matrix 2 of 5)</i>		
COOP 25	無効	
チェックデジットの確認設定	無効	
チェックデジット	送信しない	
最大桁数	255	
最小桁数	6	3 桁以上
<i>Matrix 2 of 5(European Matrix 2 of 5)</i>		
Matrix 2 of 5	有効	
チェックデジットの確認設定	無効	
チェックデジット	送信しない	
最大桁数	255	
最小桁数	6	3 桁以上
<i>Industrial 25</i>		
Industrial 25	有効	
チェックデジットの確認設定	無効	
チェックデジット	送信しない	
最大桁数	255	
最小桁数	6	4 桁以上
<i>Standard 25</i>		
Standard 25	有効	
チェックデジットの確認設定	無効	
チェックデジット	送信しない	
最大桁数	255	
最小桁数	6	4 桁以上
<i>Code 39</i>		
Code 39	有効	
チェックデジットの確認設定	無効	
チェックデジット	送信しない	
Code 39 スタート / ストップ キャラクター	送信しない	
Code 39 Full ASCII	有効	
Code 32	無効	
Code 32 プリフィックス	無効	
Code 32 スタート / ストップ キャラクター	送信しない	
Code 32 チェックデジット	送信しない	
最大桁数	255	
最小桁数	4	4 桁以上 (スタート/ストップ プレフィックスとチェック デジットを含む)

パラメータ	工場出荷時設定	備考
<i>Codabar (NW7)</i>		
Codabar (NW7)	有効	
チェックデジットの確認設定	無効	
チェックデジット	送信しない	
スタート / ストップ キャラクター	無効 スタート / ストップ キャラクターの送信	
最大桁数	255	
最小桁数	4	1桁以上
<i>Code 93</i>		
Code 93	有効	
チェックデジットの確認設定	有効	
チェックデジット	送信しない	
最大桁数	255	
最小桁数	2	1桁以上
<i>Code 11</i>		
Code 11	無効	
チェックデジット	送信しない	
チェックデジットの確認設定	1 チェックデジット, MOD11	
最大桁数	255	
最小桁数	4	3桁以上
<i>Plessey</i>		
Plessey	無効	
チェックデジットの確認設定	有効	
チェックデジット	送信しない	
最大桁数	255	
最小桁数	4	4桁以上
<i>MSI-Plessey</i>		
MSI-Plessey	無効	
チェックデジット	送信しない	
チェックデジットの確認設定	1 チェックデジット, MOD10	
最大桁数	255	
最小桁数	4	3桁以上
<i>GS1 Databar</i>		
GS1 Databar	有効	
データフォーマット		
データフォーマット	無効	
複数のフォーマット	無効	
データフォーマットの選択	Format_0	
□ □ □ □ □ □ □ □	On	

AIM ID Table

各種バーコード	AIM ID	可能な AIM ID Modifiers (m)
Code 128	JC0	
UCC/EAN-128	JC1	
AIM 128	JC2	
JAN-8 (EAN-8)	JE4	
JAN-13 (EAN-13)	JE0	
JAN-13 (EAN-13) with Add-On	JE3	
ISSN	JX0	
ISBN	JX0	
UPC-E	JE0	
UPC-E with Add-On	JE3	
UPC-A	JE0	
UPC-A with Add-On	JE3	
Interleaved 2 of 5, Febraban	JIm	0, 1, 3
ITF-6	JIm	1, 3
ITF-14	JIm	1, 3
Deutsche 14	JX0	
Deutsche 12	JX0	
COOP 25 (Japanese Matrix 2 of 5)	JX0	
Matrix 2 of 5 (European Matrix 2 of 5)	JX0	
Industrial 25	JS0	
Standard 25	JR0	
Code 39, Code 32	JAm	0, 1, 3, 4, 5, 7
Codabar	JFm	0, 2, 4
Code 93	JG0	
Code 11	JHm	0, 1, 3
Plessey	JP0	
MSI-Plessey	JMm	0, 1
GS1 Databar	Je0	

注:「m」はAIMモディファイキャラクターを表します。ISO / IEC 15424:2008 情報技術 - 自動識別およびデータキャプチャ技術 - AIMモディファイキャラクターの詳細のためのデータキャリア識別子 (シンボル識別子を含む) を参照。

Code ID Table

各種バーコード	Code ID
Code 128	j
UCC/EAN-128	u
AIM 128	f
JAN-8 (EAN-8)	g
JAN-13 (EAN-13)	d
ISSN	n
ISBN	B
UPC-E	h
UPC-A	c
Interleaved 2 of 5, Febraban	e
ITF-6	r
ITF-14	q
Deutsche 14	w
Deutsche 12	l
COOP 25 (Japanese Matrix 2 of 5)	o
Matrix 2 of 5 (European Matrix 2 of 5)	v
Industrial 25	i
Standard 25	s
Code 39, Code 32	b
Codabar	a
Code 93	y
Code 11	z
Plessey	p
MSI-Plessey	m
GS1 Databar	R

ASCII Table

Hex	Dec	Char
00	0	NUL (Null char.)
01	1	SOH (Start of Header)
02	2	STX (Start of Text)
03	3	ETX (End of Text)
04	4	EOT (End of Transmission)
05	5	ENQ (Enquiry)
06	6	ACK (Acknowledgment)
07	7	BEL (Bell)
08	8	BS (Backspace)
09	9	HT (Horizontal Tab)
0a	10	LF (Line Feed)
0b	11	VT (Vertical Tab)
0c	12	FF (Form Feed)
0d	13	CR (Carriage Return)
0e	14	SO (Shift Out)
0f	15	SI (Shift In)
10	16	DLE (Data Link Escape)
11	17	DC1 (XON) (Device Control 1)
12	18	DC2 (Device Control 2)
13	19	DC3 (XOFF) (Device Control 3)
14	20	DC4 (Device Control 4)
15	21	NAK (Negative Acknowledgment)
16	22	SYN (Synchronous Idle)
17	23	ETB (End of Trans. Block)
18	24	CAN (Cancel)
19	25	EM (End of Medium)
1a	26	SUB (Substitute)
1b	27	ESC (Escape)
1c	28	FS (File Separator)
1d	29	GS (Group Separator)

Hex	Dec	Char
1e	30	RS (Request to Send)
1f	31	US (Unit Separator)
20	32	SP (Space)
21	33	! (Exclamation Mark)
22	34	" (Double Quote)
23	35	# (Number Sign)
24	36	\$ (Dollar Sign)
25	37	% (Percent)
26	38	& (Ampersand)
27	39	' (Single Quote)
28	40	((Left/ Opening Parenthesis)
29	41	) (Right/ Closing Parenthesis)
2a	42	* (Asterisk)
2b	43	+ (Plus)
2c	44	, (Comma)
2d	45	- (Minus/ Dash)
2e	46	. (Dot)
2f	47	/ (Forward Slash)
30	48	0
31	49	1
32	50	2
33	51	3
34	52	4
35	53	5
36	54	6
37	55	7
38	56	8
39	57	9
3a	58	: (Colon)
3b	59	; (Semi-colon)
3c	60	< (Less Than)
3d	61	= (Equal Sign)

Hex	Dec	Char
3e	62	> (Greater Than)
3f	63	? (Question Mark)
40	64	@ (AT Symbol)
41	65	A
42	66	B
43	67	C
44	68	D
45	69	E
46	70	F
47	71	G
48	72	H
49	73	I
4a	74	J
4b	75	K
4c	76	L
4d	77	M
4e	78	N
4f	79	O
50	80	P
51	81	Q
52	82	R
53	83	S
54	84	T
55	85	U
56	86	V
57	87	W
58	88	X
59	89	Y
5a	90	Z
5b	91	[(Left/ Opening Bracket)
5c	92	\ (Back Slash)
5d	93	] (Right/ Closing Bracket)

Hex	Dec	Char
5e	94	^ (Caret/ Circumflex)
5f	95	_ (Underscore)
60	96	' (Grave Accent)
61	97	a
62	98	b
63	99	c
64	100	d
65	101	e
66	102	f
67	103	g
68	104	h
69	105	i
6a	106	j
6b	107	k
6c	108	l
6d	109	m
6e	110	n
6f	111	o
70	112	p
71	113	q
72	114	r
73	115	s
74	116	t
75	117	u
76	118	v
77	119	w
78	120	x
79	121	y
7a	122	z
7b	123	{ (Left/ Opening Brace)
7c	124	(Vertical Bar)
7d	125	} (Right/ Closing Brace)
7e	126	~ (Tilde)
7f	127	DEL (Delete)

ASCII ファンクションキーマッピングテーブル

ASCII ファンクション	ASCII 値 (HEX)	ファンクション キーマッピングなし	ファンクション キーマッピング
NUL (Null char.)	00	Null	Ctrl+2
SOH (Start of Header)	01	Keypad Enter	Ctrl+A
STX (Start of Text)	02	Caps Lock	Ctrl+B
ETX (End of Text)	03	Null	Ctrl+C
EOT (End of Transmission)	04	Null	Ctrl+D
ENQ (Enquiry)	05	Null	Ctrl+E
ACK (Acknowledgment)	06	Null	Ctrl+F
BEL (Bell)	07	Enter	Ctrl+G
BS (Backspace)	08	Left Arrow	Ctrl+H
HT (Horizontal Tab)	09	Horizontal Tab	Ctrl+I
LF (Line Feed)	0A	Down Arrow	Ctrl+J
VT (Vertical Tab)	0B	Vertical Tab	Ctrl+K
FF (Form Feed)	0C	Delete	Ctrl+L
CR (Carriage Return)	0D	Enter	Ctrl+M
SO (Shift Out)	0E	Insert	Ctrl+N
SI (Shift In)	0F	Esc	Ctrl+O
DLE (Data Link Escape)	10	F11	Ctrl+P
DC1 (XON) (Device Control 1)	11	Home	Ctrl+Q
DC2 (Device Control 2)	12	Print Screen	Ctrl+R
DC3 (XOFF) (Device Control 3)	13	Backspace	Ctrl+S
DC4 (Device Control 4)	14	tab+shift	Ctrl+T
NAK (Negative Acknowledgment)	15	F12	Ctrl+U
SYN (Synchronous Idle)	16	F1	Ctrl+V
ETB (End of Trans. Block)	17	F2	Ctrl+W
CAN (Cancel)	18	F3	Ctrl+X
EM (End of Medium)	19	F4	Ctrl+Y
SUB (Substitute)	1A	F5	Ctrl+Z
ESC (Escape)	1B	F6	See the following table
FS (File Separator)	1C	F7	
GS (Group Separator)	1D	F8	
RS (Request to Send)	1E	F9	
US (Unit Separator)	1F	F10	

ASCII ファンクションキーマッピングテーブル(続き)

前の表の最後の 5 文字のファンクションキーのマッピングは、キーボードレイアウトによって異なります。

国/ キーボード・レイアウト	ファンクションキーマッピング				
	1B	1C	1D	1E	1F
United States	Ctrl+[	Ctrl+\	Ctrl+]	Ctrl+6	Ctrl+-
Belgium	Ctrl+[	Ctrl+<	Ctrl+]	Ctrl+6	Ctrl+-
Scandinavia	Ctrl+8	Ctrl+<	Ctrl+9	Ctrl+6	Ctrl+-
France	Ctrl+^	Ctrl+8	Ctrl+\$	Ctrl+6	Ctrl+=
Germany		Ctrl+Ã	Ctrl++	Ctrl+6	Ctrl+-
Italy		Ctrl+\	Ctrl++	Ctrl+6	Ctrl+-
Switzerland		Ctrl+<	Ctrl+.	Ctrl+6	Ctrl+-
United Kingdom	Ctrl+[	Ctrl+ ¢	Ctrl+]	Ctrl+6	Ctrl+-
Denmark	Ctrl+8	Ctrl+\	Ctrl+9	Ctrl+6	Ctrl+-
Norway	Ctrl+8	Ctrl+\	Ctrl+9	Ctrl+6	Ctrl+-
Spain	Ctrl+[	Ctrl+\	Ctrl+]	Ctrl+6	Ctrl+-

各種バーCode ID ナンバー

各種バーコード	ID ナンバー
Code 128	002
UCC/EAN-128	003
JAN-8 (EAN-8)	004
JAN-13 (EAN-13)	005
UPC-E	006
UPC-A	007
Interleaved 2 of 5, Febraban	008
ITF-14	009
ITF-6	010
Matrix 2 of 5	011
Code 39, Code 32	013
Codabar	015
Code 93	017
AIM-128	020
COOP 25	022
ISSN	023
ISBN	024
Industrial 25	025
Standard 25	026
Plessey	027
Code 11	028
MSI-Plessey	029
GS1 Databar	031
Deutsche 14	128
Deutsche 12	129

Unicode キーマップ

6E	70	71	72	73	74	75	76	77	78	79	7A	7B	7C	7D	7E					
01	02	03	04	05	06	07	08	09	0A	0B	0C	0D	0F	4B	50	55	5A	5F	64	69
10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	1A	1B	1C	1D	4C	51	56	5B	60	65	6A
1E	1F	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	2B					5C	61	66	
2C	2E	2F	30	31	32	33	34	35	36	37	39				53		5D	62	67	
3A	3B	3C			3D				3E	3F	38	40	4F	54	59		63	68	6C	

104 Key U.S. Style Keyboard

数値バーコード

0~9



@DIGIT0

0



@DIGIT5

5



@DIGIT1

1



@DIGIT6

6



@DIGIT2

2



@DIGIT7

7



@DIGIT3

3



@DIGIT8

8



@DIGIT4

4



@DIGIT9

9

A~F



@DIGITA

A



@DIGITD

D



@DIGITB

B



@DIGITE

E



@DIGITC

C



@DIGITF

F

バーコードの保存/取り消し

数字のバーコードを読み取ったら、保存するために保存バーコードをスキャンする必要があります。

間違った数字をスキャンした場合、キャンセルバーコードをスキャンし、設定をもう一度やり直すか、

[最後の桁の削除]バーコードをスキャンし、次に正しい桁をスキャンする。または、Delete All Digits バーコードをスキャンしてから、必要な数字をスキャンします。

たとえば、最大桁数のバーコードと数字のバーコード「1」、「2」、「3」を読み取った後、次のようにスキャンします。

最後の桁 削除:最後の桁 “3”が削除されます。

すべての桁 削除:すべての数字 “123”が削除されます。

キャンセル:最大桁数 設定がキャンセルされます。 スキャナはまだセットアップモードになっています。



保存



キャンセル



最後の桁 削除



すべての桁 削除

